

令和 5 年度  
仙台市市民活動サポートセンター  
年間報告書

特定非営利活動法人せんだい・みやぎ NPO センター



1 はじめに 総括	P 1	7 集計一覧	
2 場の提供	P 8	資料 1	サポートセンター年間行事
2-1 貸室	P10	資料 2	主な項目の利用状況推移
2-2 交流サロン	P12	資料 3	情報関連業務利用状況推移
2-3 共同事務室(事務用ブース)、ロッカー、 レターケース	P13	資料 4	市民活動共同事務室利用状況
2-4 パソコン、印刷機、コピー機	P15	資料 5	貸室利用状況(部屋別集計)
3 情報の収集・提供	P16	資料 6	貸室利用時間(曜日・時間別集計)
3-1 情報掲示等利用	P16	資料 7-1	利用団体分野別集計
3-2 団体情報の蓄積	P16	資料 7-2	交流サロン種別集計
3-3 市民活動団体への情報提供	P17	資料 7-3	Free Wi-Fi の利用集計
3-4 図書の出借	P18	資料 8	団体情報ストック数 分野別集計
3-5 情報発信	P19	資料 9	図書資料分類別冊数
4 相談・問い合わせ対応	P20	資料 10	ホームページ アクセス件数集計表
5 交流・連携・その他	P24	資料 11	「ぱれっと」発行状況
5-1 外部組織との連携	P32	資料 12	相談・問合せ対応記録集計表
5-2 会議・研修	P32	12-1	相談サマリー
5-3 視察・見学対応	P33	12-2	相談集計結果【主訴－相談主体】
5-4 防災避難訓練	P35	12-3	相談集計結果【内容－相談者】
5-5 施設維持管理	P36	資料 13	視察・見学等対応
6 事業報告	P37	資料 14	サポートセンター業務運営体制
事業 1 情報収集提供事業	P39		
事業 2 相談事業	P41		
事業 3 人材育成事業	P47		
事業 4 協働に関する 理解促進及び機会創出事業	P51		
事業 5 調査研究事業	P63		
	P69		



## 1. はじめに 総括

社会課題解決に興味・関心のある人材が活動に参加することを後押しし、担い手を増やす

### ○仙台市市民活動サポートセンター運営基本方針

現在の指定管理期間で目標として掲げた「令和 6 年度(2024 年度)には、年間 50 件程度の新しい活動やプロジェクトがサポートセンターの事業を通して生まれ、300 人以上の担い手が参画し、課題を解決する新しい事業や仕組みが地域社会に実装されていく」ためには、新しい担い手が参画しやすい環境をつくっていく必要がある。

仙台市主催の「仙台若者まちづくりラボ」に参加するなど、まちづくり活動への参加に興味・関心を示す若者がいる一方で、市民活動団体では慢性的な高齢化・人材不足が続いている(サポートセンター利用団体の活動報告書提出団体の半数以上が、活動の課題に「人材」の課題を上げている)。

以上を踏まえて、令和 5 年度(2023 年度)は、社会の課題解決へ参加意欲がある人材が、活動に参加することを後押しし、担い手を増やすことを運営基本方針とした。

若者の活動参加では、仙台まちづくり若者ラボの参加者の各グループの活動を情報発信や相談対応で後押しした他、社会教育士実習の受け入れにボランティア体験などを盛り込み、活動参加の機会を提供した。

複数回にわたり伴走相談を行い、活動立ち上げの意図がある個人が「情報交換会」という形で活動を実現させた例や、説明会&交流会をサポートセンターと共催し、多くの活動参加者の獲得につながった例など、担い手を増やすことができた。

その他、せんだい・みやぎソーシャルハブを通してプロボノ希望者と市民活動団体をつなぐ取り組みや、調査報告会で企業の人材を登録団体に仲介する公益財団法人日本フィランソロピー協会の「ボランティアウェブ」を紹介するなど、企業セクターの人材を市民活動団体につなぐ橋渡しも行った。

## ○令和 5 年度の成果と課題

### (1)施設運営

#### ①成果

**年間利用団体数 1,275 団体**

新型コロナウイルス感染拡大の影響で令和2年度に大きく落ち込んだ貸室・交流サロンの利用団体(令和元年度 720 団体、令和2年度 357 団体)も、令和3年度から復調の兆しが見え始め(令和3年度 404 団体、令和4年度 511 団体)、令和5年度は 557 団体が利用。令和元年度の 77%まで利用が戻ってきた。

相談の利用団体数(個人も含む)は、令和4年度に引き続き、貸室・交流サロンの利用団体を大きく上回った。(令和4年度795団体、令和5年度858団体)。サポートセンターの役割が「場の提供」に限らないことを示している(P9「2. 場の提供 ■利用団体数」参照)。

※重複利用があるため、貸室・交流サロンの利用団体数と相談の利用団体数の計は年間利用団体数を超える。

#### ②課題

利用団体数は新型コロナウイルス感染拡大前の水準まで回復した一方で、総利用件数・利用者総数は令和元年度の7割前後にとどまった。これは交流サロンの利用件数・利用者数が回復していない(令和元年度比で、利用件数は約6割、利用者数は約5割)ことに起因している(集計一覧:資料2「主な項目の利用状況推移」参照)。

新型コロナウイルス感染拡大以降、ミーティングの持ち方や活動の仕方が多様化していることから、「場の提供」としてのニーズが頭打ちとなっていることが推測される。「場の提供」だけでなく、相談や情報の受発信、また活動の現場に訪問するなど、多様なニーズに応える施設運営が課題である。

## (2)情報収集提供事業

### ①成果

<b>ブログの年間訪問者数(ユニークユーザー) 62,784件</b>
記事投稿数 384件

サポートセンターのブログでは、主催事業の告知や報告、市民活動団体のイベント情報、助成金情報、令和6年能登半島地震の被災地支援情報などを掲載。令和5年度は、記事投稿数は384件と令和4年度の322件から増加した。

訪問者数(ユニークユーザー)62,784件(前年度比 96%)、閲覧数(ページビュー)は796,061件(前年度比86%)と、ともに令和4年度を下回ったが、年間目標として掲げた訪問者数(ユニークユーザー)40,000件を大きく上回るアクセスがあった(P22「3-5. 情報発信(3)ブログの管理」参照)。

### ②課題

ブログの訪問者数、閲覧数は前年度比で減少したが、X(エックス)のフォロワー数は令和4年度末の916件から、令和5年度末には1,190件に増加(P22「3-5. 情報発信(4)X(エックス)の管理」参照)。市民活動団体からのチラシ・ポスター・ニュースレターの受付件数と市民活動イベント掲示板の利用件数を合わせた「情報掲示受付件数」は4,042件で、令和元年度の3,600件を超えた(集計一覧:資料2「主な項目の利用状況推移」、資料3「情報関連業務利用状況推移」参照)。この状況から、情報の受発信の媒体は、ホームページやブログに限らず、SNSや昔ながらの紙媒体まで多様化していることが考えられる。

今後も特定の媒体に偏ることなく、ホームページ、ブログ、SNS、動画コンテンツ、紙媒体など、多種多様な媒体を組み合わせた発信が課題である。

### (3)相談事業

#### ①成果

**年間相談件数 1,101件** (前年度比 102%)

うち活動相談 438件 (前年度比 100%)

サポートセンターの令和5年度年間目標

年間相談件数 900 件、うち活動相談 400 件 → 達成

令和5年度の相談件数は1,101件(令和4年度1,077件、前年度比102%)。年間目標としていた900件を大きく上回った。令和5年度の相談の内訳をみると、「活動相談」438件(令和4年度437件、前年度比100%)、施設の利用問合せなどの「窓口利用相談」362件(令和4年度409件、前年度比89%)、スタッフから団体へ声がけして話を聞いた情報共有などが含まれる「その他」301件(令和4年度231件、前年度比130%)で、活動相談が窓口利用相談を上回った(P24～「4. 相談・問い合わせ対応」参照)。

活動相談について、相談者の属性別にみると、市民活動団体が半数を占めた。市民活動団体からの相談では、「組織運営基盤(事務局運営・税務・労務・会計・資金・人材・労務等)」に関する相談が最多で111件だった(資料12-2「相談集計結果【主訴一相談主体】」参照)。具体的には、法人格を持たない任意団体からは、法人化相談や事務局運営の今後の方針について、NPO法人からは、資金調達や法人の解散に向けた相談などがあった。

#### ②課題

「窓口利用相談」と「活動相談」、「その他」を合わせた相談全体では、町内会からの相談が前年度比43%と大きく減少した(P27「4. 相談・問い合わせ対応(4)成果③相談全体における相談者の属性」参照)。活動相談に限ってみても、町内会からの相談は前年度比46%と半数以下に減少(P28「4. 相談・問い合わせ対応(4)成果④活動相談における属性別相談件数」参照)。仙台市の「地域づくりパートナープロジェクト推進助成制度」の事前相談での、町内会からの相談減少が大きく影響している。まちづくりを担う重要な主体の一つである町内会は、後継者不足や加入率の低下などの課題を常に抱えており、組織基盤の脆弱化や担い手育成における課題があると考えられる。

## (4)人材育成事業

### ①成果

**事業参加を通して行動や活動に変化がもたらされた事例 累計 334 件**

サポートセンターの目標

事業参加を通して行動や活動に変化がもたらされた事例 5年間で100件以上

→ 達成

若者の人材育成に資する事業を、関係機関等とも連携しながら、毎年度2事業以上実施する。

→ 達成

(仙台まちづくり若者ラボ、仙台若者 SDGsアワード、社会福祉士実習の受入)

事業参加後・相談後に行動や活動に変化がもたらされた事例を、電話での聞き取りや活動先への訪問、来館時の声がけなどで把握した。その件数は、令和4年度終了時点で197件だったが、令和5年度終了時点で、累計334件に増加した。以下に3つの事例を紹介する。

#### 事例1 サポートセンター主催講座「動画制作講座」(令和4年度実施)受講団体

令和5年2月の動画制作講座を受講後、団体のYouTubeチャンネルを開設し、動画を2本公開。令和5年10月に、「動画の効果もあり、団体のブログのページビューも増加した」との報告があった。SNSでの発信や広報全般について継続支援中。

#### 事例2 活動相談から活動立ち上げ

女性の防災について活動立ち上げからサポートセンターが定期的に相談対応。活動の始め方を伝える「コトハジメ塾」(令和4年度10月実施)も受講し、やりたいことを活動に落とし込んだ。勉強会のテーマやゴール設定をサポートセンターと一緒に言い、令和5年9月より2回、情報交換会を開催した。

#### 事例3 伴走相談中の団体同士をコーディネート

個別に伴走相談で対応していた2団体の活動内容・活動対象に共通点があったことから、サポートセンターが仲介し、協働で高齢者対象の講座を実施することになった。

### ②課題

社会の課題解決へ参加意欲があるがまだ活動していない人材に対し、活動への参加を後押しすることを目的に、動画コンテンツ「いづいっちゃんねる」で地域にある社会課題を発信してきたが、令和5年度に「いづいっちゃんねる」を会場で一緒に視聴する「ちょボラシアター」や、「いづいっちゃんねる」配信後に配信で取り扱った社会課題について話すNPO法人メディアージュ主催のコーヒー・ハウスへの参加促進を行い、それらの参加者について把握してみたところ、すでに何らかの活動をしている人が多かった。

社会の課題解決へ参加意欲があるがまだ活動していない人材に向けて企画の立て直し、または別の企画によるアプローチが必要である。

## (5)協働に関する理解促進及び機会創出事業

### ①成果

**多様な主体が交流できる機会の参加者 のべ267人参加**

多様な主体が社会課題について意見交換を行う「せんだい・みやぎソーシャルハブ」を全11回実施し、のべ250人が参加した(うち新規参加者は94人)。市民、企業、大学関係者、市民活動団体、行政職員、市議会議員などさまざまな立場の人が活発に意見交換を行う場を提供できた。さらに、参加者が登録できるメーリングリストを新設。メール上でも意見交換ができる機会として継続運用中。

協働の理解促進や機会創出に資する事業として、「せんだい・みやぎソーシャルハブ」の他に、協働事例を紹介する「協働の現場トーク!」を実施。市民活動団体や行政職員など17人が参加した。

### ②課題

「せんだい・みやぎソーシャルハブ」は多様な主体が参加する機会になっているものの、実際に課題解決のために協働が生まれる場としてはまだ機能していない。

## (6)調査研究事業

### ①成果

社会課題解決のプラットフォームを運用する中で、プロボノの導入や仲介、企業ヒアリングを開始し、少しずつではあるが、プロボノ希望の個人や企業との関りが増えてきている。

課題解決のために地域のキーパーソンをつなぐ役割を担うコーディネーターの育成に着手した。

### ②課題

せんだい・みやぎソーシャルハブが、実績や何ができるところかがわかりづらく、企業をはじめ、外部の人たちから見て、つながることが有益であると思えるような存在にまだなっていない。

## ○新型コロナウイルス感染症の発生に伴う施設等の取り扱い

### (1)ガイドライン

仙台市危機管理室発行の「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う仙台市の事業及び施設等の取り扱いに係るガイドライン」は、感染法上で新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行したことを受けて、令和5年5月8日に廃止された。(最後の改訂は令和5年3月13日の三十九訂版)

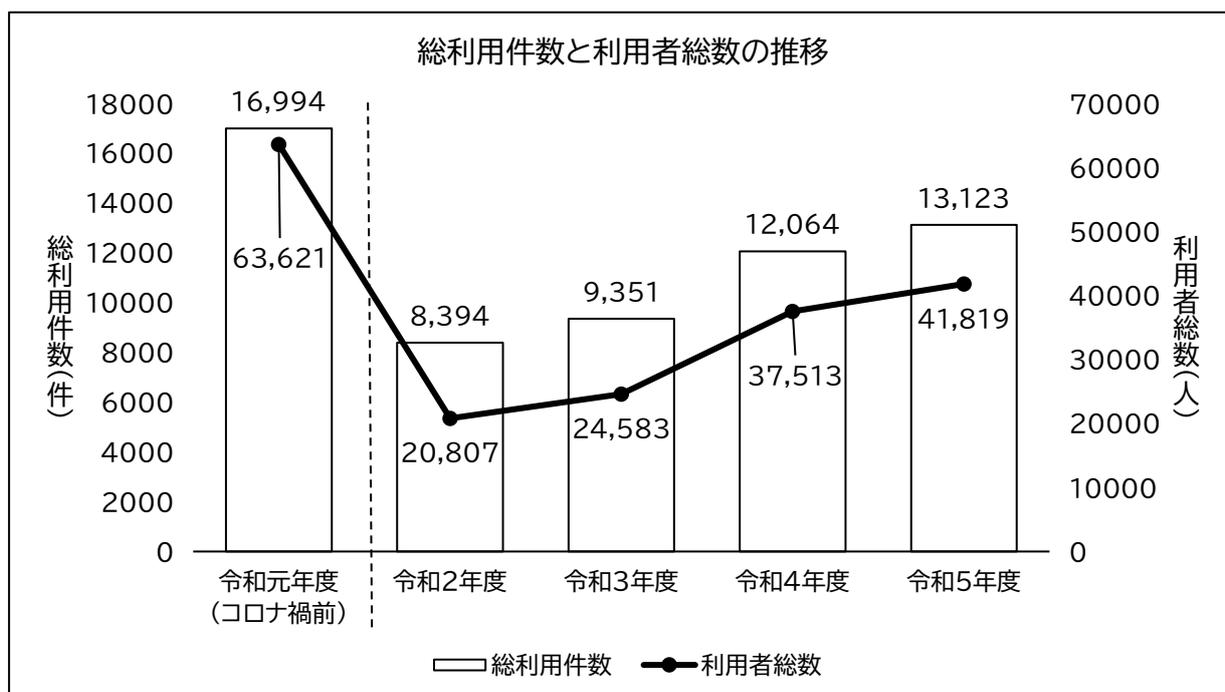
## 2. 場の提供

令和5年度の総利用件数は13,123件(前年度比1,059件増)、利用者総数は41,819人(前年度比4,306人増)であった。情報利用者数(参考値)の8,155人を加えた合計利用者数は49,974人(前年度比4,512人増)となった。(集計一覧:資料2「主な項目の利用状況推移」参照)

総利用件数/ 利用者総数	総利用件数(件)	利用者総数(人)		
		利用者総数	情報利用者数 (参考値)	合計利用者数
R4年度	12,064	37,513	7,949	45,462
R5年度	13,123	41,819	8,155	49,974

情報利用者数…1階のマチノワひろば利用者やチラシ、ニューズレターなどの情報を閲覧もしくは収集している利用者の数。  
 利用票で集計されるイベントなどの利用者やパソコン利用、図書貸し出しの利用者は含めない。

総利用件数・利用者総数ともに令和4年度より増加した。新型コロナウイルス感染拡大以前の令和元年度の数字には届かないものの回復傾向にあると言える。



### ■利用団体数

「貸室」「交流サロン」の利用団体に、「相談」「ロッカー・レターケース・事務用ブース」の利用団体を加えて集計した総計(施設利用団体総数)は1,275団体となった。

施設利用 団体数	施設利用団体数				相談	ロッカー・ レターケース ・事務用ブース	総計
	セミナー・ 研修室	市民活動 シアター	交流 サロン	貸室利用 団体数計			
R4年度	314	45	290	511	795	113	997
R5年度	336	60	307	557	858	111	1,275

総計(施設利用団体総数)・・・重複利用があるため、内訳の各利用団体数計と利用団体総数は一致しない。

新型コロナウイルス感染拡大以降、活動が止まっていた団体が活動を再開した他、新規に活動を立ち上げる団体もでてきたため利用団体数は全体的に増加した。一方で「ロッカー・レターケース・事務用ブース」については令和4年度に引き続き、わずかに減少傾向が見られた。

### ■全館Wi-Fiの利用状況

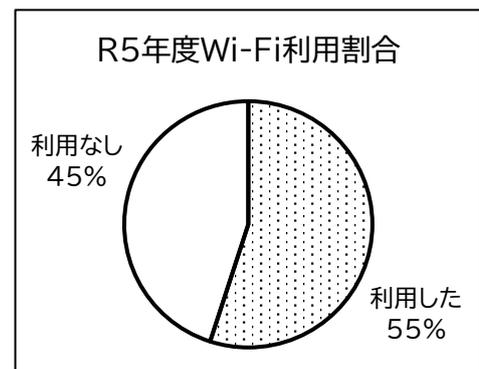
全館Free Wi-Fiの令和5年度利用総数は3,034件、利用率は55%で半数以上がWi-Fiを利用した。利用の仕方としてインターネットを活用した調べ物、オンラインを併用したハイブリッド型によるイベントの開催、ウェブ会議といった場面で活用された。

Wi-Fi 利用	R4年度	R5年度
貸室・交流サロン利用件数	5,094	5,518
うちWi-Fi利用件数	2,471	3,034
利用率	49%	55%

貸室では通信を安定させるために有線LANを接続して利用するなど、インタ

ーネット環境が利用者に活用されている様子が見てとれた。

部屋別の利用率を見ると、令和4年度に引き続きセミナーホール・市民活動シアター・交流サロンで利用率が50%を超えた。セミナーホールと市民活動シアターは、イベントのオンライン配信で、交流サロンはクラウドサービスを利用した事務作業やメール連絡等でWi-Fiを活用することが多いと推察される。(集計一覧:資料7-3「Free Wi-Fiの利用集計」参照)



## 2-1. 貸室

市民活動シアターをのぞく地上階の貸室(セミナーホールおよび研修室1～5)の令和5年度の利用状況は、利用件数2,366件(前年度比124件減)、利用人数は25,557人(前年度比602人増)となった。部屋ごとに利用件数や利用人数の増減の傾向が異なった。セミナーホール、研修室1、研修室3、研修室5は利用件数が減少し、利用人数が増加。研修室2は利用件数・利用人数共に減少。研修室4は利用件数・利用人数ともに増加した。

一方で、市民活動シアターは利用件数、利用人数ともに令和4年度より増加した。特に利用人数は1.5倍近くまで増加しており、コンサートや演劇、ダンスなど多くの観客が見込まれる活動が活発になってきていると推察できる。

貸室利用状況	R4年度(開館日数335日)			R5年度(開館日数336日)		
	件数	人数	利用率	件数	人数	利用率
セミナーホール	337	9,523	77%	304	9,581	71%
研修室1	464	2,689	86%	433	2,803	81%
研修室2	571	4,229	93%	548	3,954	91%
研修室3	302	1,895	70%	300	2,124	66%
研修室4	401	1,888	79%	415	2,053	79%
研修室5	415	4,731	84%	366	5,042	79%
地上階貸室計	2,490	24,955	81%	2,366	25,557	78%
市民活動シアター	95	4,742	28%	102	7,001	29%
合計	2,585	29,697	74%	2,468	32,558	71%

貸室全体の年間使用時間計は令和4年度より102時間減の8,765時間となった。貸室の中でも研修室2は年間の利用率が9割を超え、利用の頻度が高く、利用者にとって人気がある部屋であるといえる。研修室3は靴を脱いで上がる床座のため、利用率・利用時間共に低く、シニア層の利用者には敬遠されることが多いが、若者が中心の団体の中には模造紙を広げたり車座になったりすることから好まれる傾向が見られた。(集計一覧:資料5「貸室利用状況(部屋別集計)」参照)

曜日別では土曜日・日曜日の利用が多く、次いで火曜日・月曜日の利用が多かった。

時間別では、14時台の利用が最も多く、午前、午後、夜間で分けると、それぞれ11時、14時、19時に利用のピークが来た。(集計一覧:資料6「貸室利用時間(曜日・時間別集計)」参照)

## ■市民活動シアター

市民活動シアター(以下、シアター)の令和5年度(開館日336日)利用状況は、利用日数、利用時間、利用率はいずれも令和4年度(開館日335日)を上回る結果となった。利用人数は新型コロナウイルス感染拡大以前(令和元年度)の8,429人に近づきつつある。(集計一覧:資料5「貸室利用状況(部屋別集計)」参照)

利用状況	R3年度	R4年度	R5年度
利用日数	68	93	99
利用時間	470	850	914
利用率	20%	28%	29%
利用人数	2,762	4,742	7,001

利用件数は102件、年間利用率は29%だった。利用の傾向としては例年通り、土日の利用率が高い。土日のイベント本番に向けて、仕込み作業を金曜日にやることもあり、利用率がやや高くなった。また月曜日は祝日になることが多い為、利用率が比較的高くなったと推測される。

曜日別利用状況	月	火	水	木	金	土	日	年間
利用件数	10	6	4	8	12	34	28	102
R5年度年間利用率	20%	12%	14%	16%	24%	65%	54%	29%
R4年度年間利用率	8%	16%	7%	26%	21%	57%	55%	28%

1日に複数の利用がある場合があるので、利用件数は、利用日数を上回る。

利用団体数は60団体で、令和4年度比15団体増。下の表のとおり多様な団体に利用された。使用内容では、交流イベント、演劇、コンサート、上映会・展示会等が増加した一方で、シンポジウム・講演会、発表会、撮影・録音・配信は減少した。

利用団体種別	団体数	
	R4年度	R5年度
NPO	7	11
愛好会・グループ	13	12
市民劇団	3	3
実行委員会	3	7
教室	3	4
企業	3	5
各種団体	10	14
個人	3	4
利用団体合計	45	60

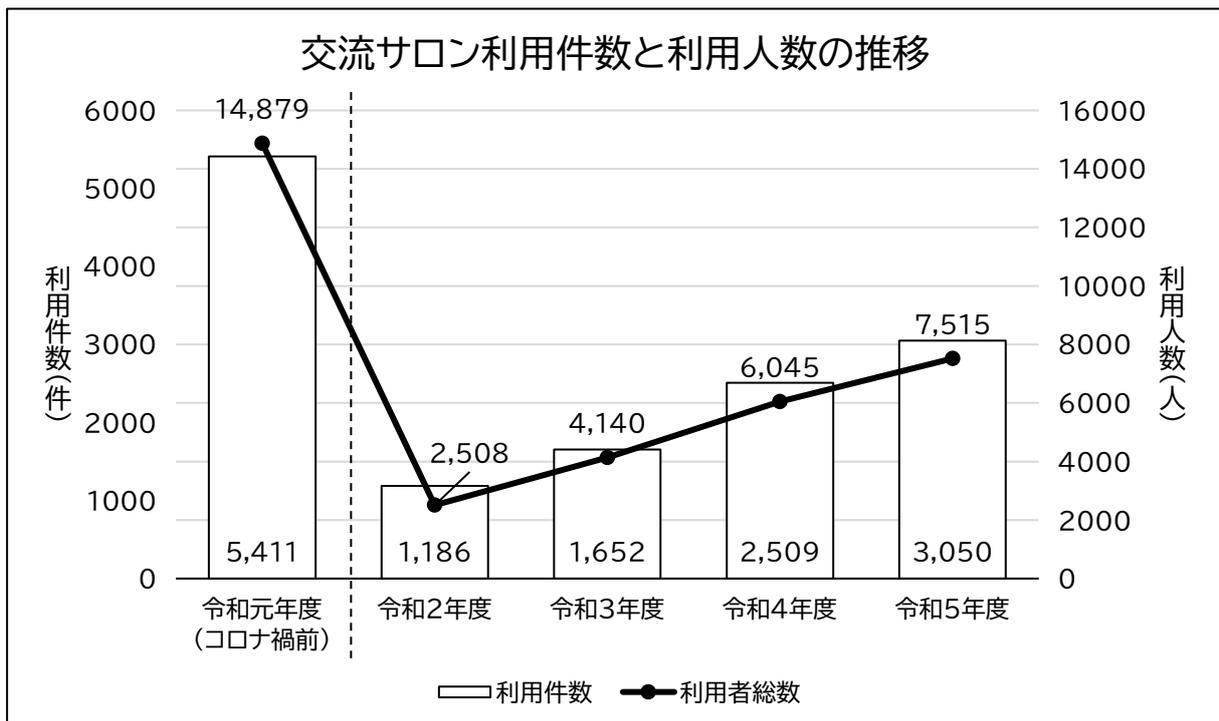
使用内容	開催件数	
	R4年度	R5年度
シンポジウム・講演会	18	15
交流イベント	17	20
演劇	7	15
コンサート	14	22
上映会・展示会等	17	22
発表会	6	0
リハーサル(稽古)	3	5
仕込・撤収	11	2
撮影・録音・配信	7	4

使用目的は複数回答にて集計

## 2-2. 交流サロン

交流サロンは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため間引きをして運用していたが、令和5年5月に感染法上で新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行したことを受けて、本来の16テーブル60席に戻して運用した。

令和5年度の交流サロン利用は、件数3,035件(前年度比541件増)、利用人数7,515人(前年度比1,470人増)と令和4年度より増加したものの、新型コロナウイルス感染拡大以前の令和元年度と比較すると、件数では約6割、人数は半数程度にとどまっており、下記のグラフのように回復は緩やかである。



交流サロンの利用形態では、令和4年度に引き続き件数・人数ともにスタンダードスペースの利用が多かった。スタンダードスペースは、アクティブスペース(4人)よりも多い人数(6人)で利用でき、なおかつカーテンによって独立した空間に近づけることができるため利用者から人気が高い。(集計一覧:資料7-2「交流サロン種別集計」参照)

## 2-3. 共同事務室(事務用ブース)、ロッカー、レターケース

### ■事務用ブース

#### ◆第25期事務用ブース入居団体◆

令和6年3月末時点

- ブースNo. 1 広瀬川1万人プロジェクト実行委員会(承認期間:令和5年9月～令和6年8月)
- ブースNo. 5 NPO法人COLLAWAKE(承認期間:令和5年10月～令和6年5月)

事務用ブースは、8月で1団体が退去し、第25期(承認期間:令和5年9月～令和6年8月)で新規に2団体が入居した。令和4年度までは、年1回の入居者募集(9月入居)に加え、空き状況により追加募集(2月入居)を行ったが、「入居のタイミングが合わない」「応募できる期間が短く、入居しづらい」との声が寄せられたため、令和5年度より入居者募集は通年でいい、入居のタイミングも6月/10月/2月の年3回入居できるように変更した。

7階のブース入居者専用のスペースに加えて5階交流サロンも使用する入居団体もあり、活動の拠点として活用された。

事務用ブース利用状況	R4 年度	R5 年度
利用件数	200 件	226 件
利用人数	334 人	335 人

#### (1)情報交換会

令和4年度までは団体の現状や持っている課題について話し合う「情報交換会」を実施していた。令和5年度は入居団体が退去後に自分たちの拠点をもち、その後も活動を維持することができるようにすることを目的として、過去にブース退去後に拠点をもちた団体をゲストとしてお迎えし、体験談を話してもらう形式に変更して実施した。

○令和5年12月11日(月)

(参加者)

- ・入居団体 2団体
- ・ゲスト 2団体(NPO法人ミヤギユースセンター、一般社団法人SC. FIELD)
- ・市民協働推進課 1名
- ・サポートセンタースタッフ 3名      計8名

(内容)

- ・話題提供「拠点を獲得・維持するためにどのようなことをしてきたか」
- ・団体の活動報告、今後の予定、情報交換・交流、次期募集について、施設運営の説明など

## ■ロッカー、レターケース

ロッカー、レターケースは第25期(承認期間:令和5年9月～令和6年8月)の募集を行った。募集数は、大16台・中28台・小60台。応募数が設置台数を超えなかったため、1団体2台まで利用可(ただし、台数の少ない大の2台使用は不可)として二次募集を行った。

令和5年度のロッカー年間平均利用率は全体では63%(内訳:大94%・中87%・小43%)。大は募集後に1台不具合が出たため、実際は15台での運用を行った。中と小は令和4年度の利用率を下回った。

年平均利用率 ( )内は設置数	R4年度	R5年度
ロッカー大(16台)	91%	94%
ロッカー中(28台)	91%	87%
ロッカー小(60台)	44%	43%
ロッカー合計(104台)	64%	63%
レターケース(168台)	47%	45%

レターケースの平均利用率は45%と令和4年度の47%から減少、取次件数も令和4年度に比べ微減した。ペーパーレス化の浸透や、新型コロナウイルス感染拡大以降、メールやオンラインでのやりとりが普及した結果の表れとみられる。

レターケース 取次件数	R1年度 (参考)	R4年度	R5年度
郵便	1,792	1,370	1,320
FAX	198	67	76
合計取次件数	1,990	1,437	1,396

## ■活動報告書

ロッカー、レターケース利用団体には年2回、事務用ブース利用団体には年4回活動報告書を提出していただいている。提出された活動報告書は、サポートセンター3階の情報サロンで、市民が閲覧できるように公開している。同じく3階で公開されている「団体情報ファイル」が市民活動団体のアーカイブとして、現在の活動状況に関わらず団体情報をストックしている一方で、活動報告書は、現在活動していることが確実な団体の情報を探している市民等に活用されている。

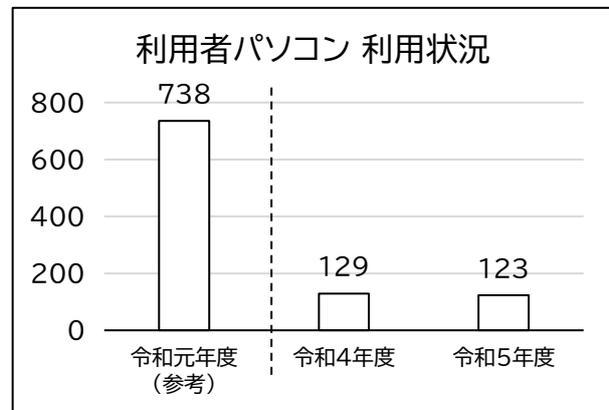
また、活動報告書に記載された団体の課題などに基づき、サポートセンターから必要な情報(例:助成金情報や組織運営課題の解決のための講座情報など)を提供した。特に令和5年度では活動報告書に記載された内容をもとに、会計面に不安がある団体には人材育成事業で企画した「会計講座」を案内。協働や連携に関心がある団体には、今後の伴走のため個別ヒアリングを実施した。

令和5年度に提出された活動報告書には、活動をより多くの人に知ってもらいたいという思いから、広報を課題とする団体が多く見られた。また団体の高齢化に伴い、若い会員の入会を望む声が多く挙がっていた。活動を若い世代に知ってもらい、受け継いで欲しいという思いがあることがうかがえる。新型コロナウイルス感染拡大で課せられていた制限が緩和されたことにより「ウェブ会議は便利だが実際に顔を合わせることが大事だと感じる」という声もあった。こういった声を踏まえ、今後の相談対応や事業立案に活かす予定である。

## 2-4. パソコン、印刷機、コピー機

### ■パソコン

令和5年度の利用者パソコンの利用件数は123件(前年度比6件減)で、新型コロナウイルス感染拡大以前と比較すると2割に満たなかった。利用する場面も印刷前の資料のちょっとした修正などであった。パソコンやスマートフォンを一人1台持つ時代において、ニーズ自体が減っていると考えられる。



### ■印刷機

令和5年度の印刷機利用件数は567件(前年度比45件増)、枚数439,529枚(前年度比2,363枚減)となった。ペーパーレスの意識が市民に広がり、1回あたりの印刷枚数が減っていると考えられる。

印刷機利用状況	R1年度(参考)	R4年度	R5年度
利用件数(件)	954	522	567
利用枚数(枚)	946,636	441,892	439,529

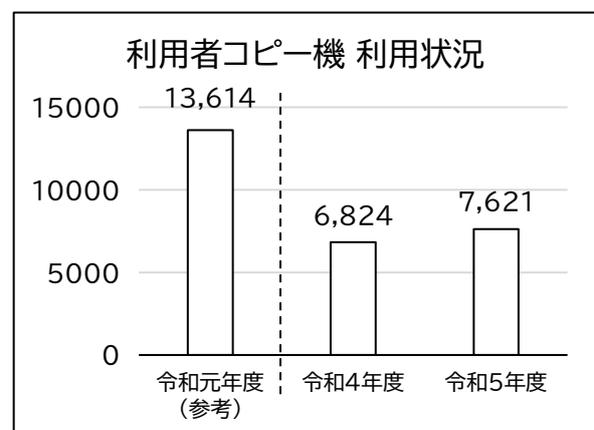
印刷物の内訳をみると、すべての項目で増加した。このことから新型コロナウイルス感染拡大で停止していた活動を再開させた団体が多いと考えられる。特にニュースレターについては様々な活動が本格的に動き出した結果と考えられる。

印刷物内訳	R1年度(参考)	R4年度	R5年度
チラシ	285	153	193
ニュースレター	85	98	174
その他	592	281	287

1度に複数の印刷物を印刷することがあるため内訳の合計は利用件数と一致しない

### ■コピー機

令和5年度のコピー機利用枚数は7,621枚(前年度比797枚増)であった。コピー機は、コピー機のみで利用されることはまれで、貸室や交流サロン、印刷機と同時に利用されることが多い。交流サロン・印刷機の利用件数増加に伴い、コピー機利用も増加したものとみられる。



### 3. 情報の収集・提供

#### 3-1. 情報掲示等利用

市民活動団体のチラシ、ポスター、ニュースレターなど情報掲示利用累計件数は 3,332 件(前年度比 114%)と増加した。それぞれを令和4年度と比べると、ポスターは 40 件増加し、チラシは 336 件と大幅に増加。令和元年度から減少し続けていたニュースレターの情報掲示利用も43件増加した。サポートセンターに集まる情報の増加は、市民による活動の活発化を示している。

情報掲示等利用件数	R1 年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
チラシ	注 2,161	注 1,152	1,261	1,703	2,039
ポスター	280	124	139	194	234
ニュースレター	1,159	1,039	1,018	1,016	1,059
計	3,600	2,315	2,418	2,913	3,332

注:R1 年度、R2 年度のチラシ合計は、骨プロ、市民活動イベント掲示板の「利用件数」を加算。(資料 3 参照)

「市民活動イベント掲示板～仙台に情報の背骨を通すプロジェクト～」は、令和 2 年 10 月から、「仙台に情報の背骨を通すプロジェクト(通称:骨プロ)」をリニューアルしたもの。受け付けた市民活動団体のイベントチラシ画像をサポートセンターのホームページ上に掲示し、希望により各連携施設への配送も行った。情報掲示利用の増加とともに、掲示板の利用も前年度比 125%と増加した。

掲示板利用件数	R1 年度 (骨プロ)	R2年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
年度計	763	注 163	366	566	710

注:令和 2 年度は「市民活動イベント掲示板」の令和 2 年 10 月～令和 3 年 3 月の利用件数

#### ■骨プロ(市民活動イベント掲示板)参加施設 (令和 5 年度末時点 10 施設)

連携団体は、チラシの配架と施設ホームページ内に「市民活動イベント掲示板」のリンクバナーを設置。

- せんだいメディアテーク
- 日立システムズホール仙台
- エル・パーク仙台
- エル・ソーラ仙台
- 仙台市ボランティアセンター
- のびすく仙台
- のびすく泉中央
- のびすく長町南
- せんだい環境学習館 たまきさんサロン
- 仙台市市民活動サポートセンター

### 3-2. 団体情報の蓄積

団体情報は、サポートセンターに持ち込まれたチラシ、マチノワひろばやギャラリー申し込み時に提出された団体紹介シートを保存し蓄積してきたもの。サポートセンター利用団体を軸にした市民活動団体の活動の軌跡である。繰り返しサポートセンターに持ち込まれる情報のみをファイルするようしており、市民活動団体の活動状況のアーカイブとしての機能を果たしている。

令和5年度末時点の団体情報数は、県内外あわせて 5,043 団体。令和4年度から 77 団体が新たに、そして定期的に情報を持ち込むようになった。

(集計一覧:資料8「団体情報ストック数 分野別集計」参照)

分野	蓄積されている団体情報			
	団体数	構成比	県内	県外
福祉	580	12%	498	82
健康・医療・スポーツ	504	10%	427	77
環境	639	13%	448	191
まちづくり	648	13%	571	77
子ども・教育	642	13%	519	123
人権・ジェンダー	389	8%	282	107
国際交流・協力	345	7%	217	128
文化・芸術	756	15%	667	89
市民活動支援	345	7%	107	238
その他	195	4%	157	38
計	5,043	100%	3,893	1,150
R4 年度累計蓄積数	4,966		3,828	1,138
前年度比	102%		102%	101%

### 3-3. 市民活動団体への情報提供

市民活動団体をはじめ、地域課題に気づき活動を起こそうとしている人など多様な主体の相談に応じることのできる環境を整えるために、市民活動に役立つ情報をテーマごとに編集した「市民活動お役立ち情報」をサポートセンター館内およびサポートセンターのホームページで提供した。

サポートセンター館内では、利用者がいつでも自由に持ち帰ることができるようチラシラックに配架し、残数が少なくなった頃合いで印刷し補充を行った。印刷状況からテーマごとの需要を分析すると、「チラシを作るコツ」と、「情報発信のプラスアルファ」が多かった。

サポートセンターのホームページからテーマごとの PDF データを常時ダウンロードできるようにした。また、YouTubeチャンネル「サポセンちゃんねる」において、動画版の「市民活動お役立ち情報」も提供。令和 5 年度末時点で下記の2本の動画を公開している。

- ・「サポセンって何だろう？～もっと知りたい！仙台市市民活動サポートセンター～」
- ・「NPOって何だろう？」

#### 市民活動お役立ち情報 印刷状況

No.	テーマ	R4 年度 <sup>注1</sup>		R5 年度
		旧	新	
1	NPO って何だろう？	40	250	130
2	規約の作り方	40	250	50
3	イベント実施のノウハウ	40	250	200
4	企画書作成のポイント	40	250	130
5	チラシを作るコツ	40	270	220
6	助成金のいろは	30	250	70
7	活動報告書の作り方	10	200	70
8	情報発信のプラスアルファ <sup>注2</sup>	20	100	220
		10		
合計		270	1,820	1,090

注1： 令和 4 年度に「市民活動お役立ち情報」の改定を行い、旧版から新版へ入れ替えた。

注2： 「8. 情報発信のプラスアルファ」は旧版の「9.メディア活用大作戦(上段)」と「10.名義後援の 受け方(下段)」を統合してリニューアルを行った。

### 3-4. 図書の貸出

令和5年度の図書登録者数は 27 人(前年度比 108%)、貸出件数は 94 件(前年度比 136%)、貸出冊数は 148 冊(前年度比 159%)と、新型コロナウイルス感染症拡大前の令和元年度の水準まで戻った。月に 1~2 回借りに来る人も何人かいる。最も多く借りられた書籍の分野は、市民活動の始め方や団体運営等に関する「NPO 関連全般」(30 冊)と、「福祉・医療・健康」の分野(30 冊)。次いで「まちづくり」分野(15 冊)だった。また、利用団体の活動報告書や出版物を積極的に購入したり、寄贈を受けたりし、図書に加えることで、市民活動団体の情報の受発信の機会にもつなげた。

図書登録者数 貸出件数	R1 年度 (参考)	R4 年度	R5 年度
登録者数(人)	28	25	27
貸出件数(件)	97	69	94
貸出冊数(冊)	129	93	148

月に 1~2 回借りに来る人も何人かいる。最も多く借りられた書籍の分野は、市民活動の始め方や団体運営等に関する「NPO 関連全般」(30 冊)と、「福祉・医療・健康」の分野(30 冊)。次いで「まちづくり」分野(15 冊)だった。また、利用団体の活動報告書や出版物を積極的に購入したり、寄贈を受けたりし、図書に加えることで、市民活動団体の情報の受発信の機会にもつなげた。

#### ■図書の展示のテーマ

現在 1,000 冊ほどある蔵書すべてを展示するスペースはないため、月 1 回入れ替えながら 1 階で展示し、閉架分は蔵書リストにて案内している。展示蔵書の選定は社会情勢に加え、主催事業や仙台市、市民活動団体との連携企画に関連するものとした。事業参加等で来館した人に役立ててもらおうと共に、書籍をきっかけに事業への関心を促す工夫を行った。

月	展示内容 ( )内はマチノワギャラリー、ひろば、事業等の関連事項
4 月	仙台の市民活動の沿革、仙台散策やまち歩き、ボランティア全般、協働によるまちづくり(協働ゼミ)
5 月	孤立防止(いづいちちゃんねる)、ローカルジャーナリズム(地域メディア談話室)、自死防止
6 月	LGBTQ・国際支援(ひろば・ギャラリー)、文化芸術活動(OtoHub)、依存症、コミュニティづくり、NPO 組織運営
7 月	偏見・差別・地域コミュニティづくり・対人支援(ひろば・ギャラリー)、気候変動アクション、会計力検定(会計塾)
8 月	加藤哲夫氏に関する書籍(ひろば)、仙台七夕に関する資料(ギャラリー)、仙台や近隣地域の歴史・文化・自然などを発信するもの、環境活動
9 月	アートと社会的包括、ローカルメディア関連(ひろば)、防災・減災(防災の日)、活動始めの一步関連(ちょっとボラ・シアター)
10 月	広瀬川など仙台の環境保全活動関連(ひろば)、国際支援、人権問題、福祉とアート、ローカルメディア、ジェンダー問題
11 月	新着図書、HIV/AIDS 関連・マイノリティ人権(ひろば)、高齢化社会・居場所づくり(ギャラリー)、協働によるまちづくり(協働ゼミ)、SDGs・企業の社会貢献活動
12 月	寄付、地元学・まち物語(ギャラリー、ひろば)、格差社会、こどもの貧困、プロボノ(ソーシャルハブ)、環境問題、活動始めの一步関連(ぱれっと)
1 月	災害ボランティア・防災減災・寄付(能登半島地震)、仙台散策、地元の魅力発見(ひろば)、地方と人口減少、活動始めの一步、NPO 組織運営
2 月	環境問題と SDGs(ギャラリー)、公共空間のデザイン(協働ゼミ)、災害と社会的弱者(能登半島地震)、NPO 会計(会計塾)
3 月	災害支援活動報告書(ソーシャルハブ)、郷土の歴史(地域メディア談話室)、病などの当事者活動(ギャラリー・ひろば)、国際協力と平和、市民協働

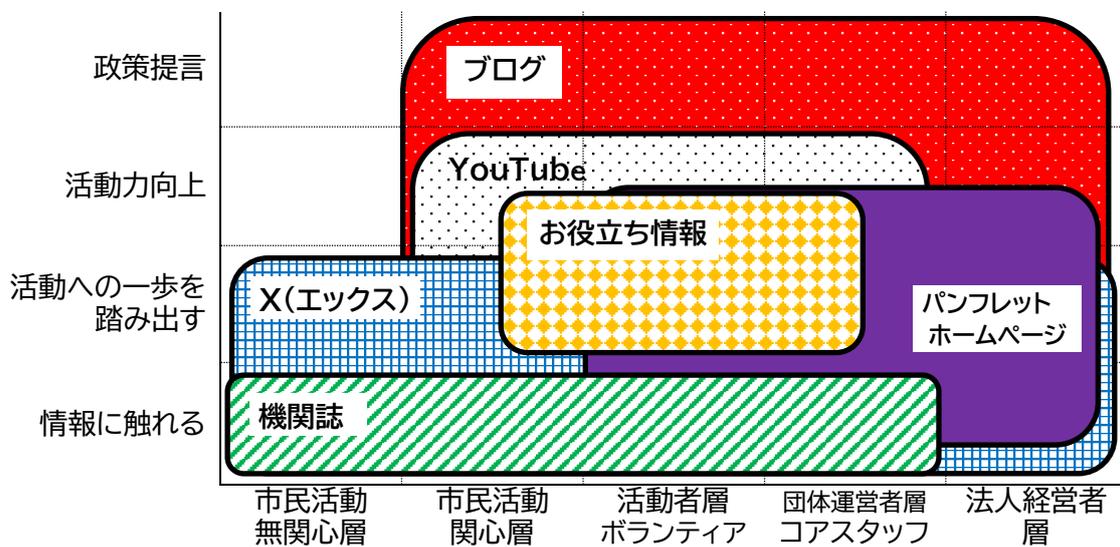
※マチノワギャラリー、マチノワひろばの展示内容、ぱれっとの掲載内容については

P43「6.事業報告 事業1 情報収集提供事業 実施概要」参照

### 3-5. 情報発信

より多くの方へサポートセンターの情報や、市民活動・協働によるまちづくりに関する情報を届けるため、対象を市民活動無関心層から法人経営者層までの 5 段階に分け、それぞれに効果的なツールを用いて発信した。

これまでサポートセンターが培ってきた広報戦略のノウハウは、広報に課題を抱える他機関にも役立てられている。生涯学習支援センターが主催する、市民センター職員等を対象としたスキルアップ研修では、「広報講座」の依頼を受けており、令和5年度で9回目となった。講座に出向くことで、他機関にサポートセンターの機能や連携の窓口を PR することにもつながっている。



#### (1) サポートセンター通信『ぱれっと』の発行

多様な主体の協働によるまちづくり事例や、様々な市民活動情報に触れてもらうために、誰もが手に取りやすいフリーペーパースタイルで発行した。市民活動無関心層から団体運営者層までの層を対象としながらも、特に 10~40 代の無関心層~活動者層をターゲットに制作。好きなことを突き詰めるうちに市民活動につながった人や、気軽に参加できる多種多様な取り組みを取り上げることで市民活動を身近に感じてもらい、読者それぞれの関心から市民活動への一歩を踏み出してもらうことを目指した。実際に、『ぱれっと』に掲載された団体のイベントに読者が参加した事例や、「掲載されていた活動者を紹介してほしい」といった問い合わせが複数あった。

令和5年度は、6月、9月、12月、3月の4回、仕様を A4 両面から A3 両面とし、見開きページにて協働の取り組みをイラスト・写真を用いながら詳しく紹介。協働で地域の課題解決や魅力向上に取り組む事例の発信に力を入れた。(集計一覧:資料 11「サポートセンター通信『ぱれっと』発行状況」参照)

『ぱれっと』コーナー名	概要
ワクワクビト	仙台の街をワクワクさせる人物を「ワクワクビト」として紹介。「人」に焦点をあて、その人自身の活動に対する思いや取り組む社会課題を発信。
ちまたのコラボ(協働)	企業、NPO、行政、商店街、教育機関などがコラボレーションし、地域の課題解決や魅力向上に取り組む事例を紹介。
市民活動 突撃レポート	市民活動団体の活動紹介。
今、私にできること	ある出来事、タイミング、めぐりあわせから始まった取り組みについて、その人の動いた心にスポットを当てて紹介。
お役立ち本	サポートセンター図書コーナーから活動に役立つ本を紹介。
コトハジメ	「地域のために何かしたい、何か始めたい」という人たちのはじめの一歩になる活動を紹介。
活動に+(プラス)	活動をレベルアップさせるようなお役立ち情報を紹介。
募集して☑	市民活動やボランティア活動を支えるヒト、モノ、コトなど募集中の情報を掲載。
このたびカタチになりまして	記念誌や調査報告、MAP や書籍など活動の成果物を紹介。
私のあしあと	サポートセンターの事業参加者や、サポセンを利用した人のその後について紹介。
気になる〇〇	読者自身が今気になっている社会課題や実践しているちょっと社会にイイコト等を投稿し、他者の一歩を後押し。

## (2)ホームページの管理

ホームページでは、サポートセンターの機能紹介と事業に関する告知等を行った。令和5年6月には、過去3年以内にスタートしたサポートセンターの新規情報発信ツール3種(「市民活動イベント掲示板」、「サポセンちゃんねる」、「助成金情報メールマガジン」)の入り口を、下層ページだけでなくトップページにも設置。ホームページ内の情報をよりわかりやすく・見つけやすくするよう工夫した。

ユニークユーザーは24,641件(令和4年度37,778件、前年度比65%)。ページビューは110,434件(令和4年度128,176件、前年度比86%)と前年を下回った。(集計一覧:資料10「ホームページ アクセス件数集計表」参照)。ただし、令和4年3月は、ホームページトラブルによる急激なアクセス上昇が発生したため単純な比較はできない。仮に、それぞれ3月分のアクセス数を除いて比較すると、ユニークユーザーは22,568件(令和4年度22,896件、前年度比99%)。ページビューは101,045件(令和4年度103,634件、前年度比98%)であったことから、前年とほぼ変わらないことが伺える。

よく見られたページは、トップページの次に「イベント・講座の案内」だった。サポートセンター主催事業(イベント・講座)の情報を、ブログやX(エックス)と連携しながら発信したことで、ホームページへのアクセスにつながった。令和5年10月からは、「市民活動イベント掲示板」もページランキング上位に上るようになった。ページへの入り口をトップページにも設置した効果はもちろんのこと、運用から3年目にして取り組みが少しずつ浸透し、市民に活用されたことがページランキングから読み取れる。(集計一覧:資料10「ページランキング」参照)

### (3) ブログの管理

サポートセンターの日常的な情報発信ツールとして、主催事業の告知や実施報告のほか、市民活動団体のイベント・ボランティア情報、助成金情報などを掲載した。広報戦略の位置付けとしては、市民活動関心層から法人経営者層までを幅広く対象としており、市民活動への気軽な参加につながる情報から、組織運営や資金調達など活動継続に必要な情報、政策提言やネットワーク構築の事例まで多様な情報を掲載した。

令和5年度は、ハワイ州マウイ島山火事被害や、能登半島地震など自然災害が頻発したため、「何かできないか」と考える人向けに募金を中心とした支援情報を多く発信した。また、日ごろの相談対応から得た市民活動団体の最新情報を見逃さず、団体の活動状況に合わせてイベントや寄付募集などの情報を拡散し、活動を支援。ブログカテゴリーの「NPOなどからの情報」にあたる記事として121件掲載した(令和4年度61件掲載)。掲載団体から「ブログに掲載されたことでイベントの参加者が増えた」「ブログを見た人から寄付の問い合わせが入った」などの声があり、市民活動や社会課題の情報に触れる人の増加や、寄付などのアクションへ踏み出す人の一歩につながった。

訪問者数(ユニークユーザー)は62,784件、閲覧数(ページビュー)は796,061件と、令和4年度を下回ったが、年間の実施目標である記事投稿数250件と、訪問者数(ユニークユーザー)40,000件については、大きく上回る形で達成できた。年間5件以上の掲載を目指した事業者の社会貢献活動については、企業などが行っている地域の課題解決・魅力向上に向けた取り組み、地域イベントに協賛した事例など25件を紹介した(サポートセンター通信『ぱれっと』で紹介した取り組みも含む)。

ブログ投稿記事数およびアクセス数			
R5年度	記事投稿数	訪問者数 (ユニークユーザー)	閲覧数 (ページビュー)
4月	30	4,363	60,454
5月	34	4,469	69,765
6月	27	4,461	63,683
7月	32	4,488	70,269
8月	35	4,539	61,432
9月	32	5,467	65,496
10月	39	6,498	77,857
11月	35	6,815	82,203
12月	36	5,560	63,538
1月	30	6,032	58,825
2月	27	4,990	54,883
3月	27	5,102	67,656
計	384	62,784	796,061
R4年度	322	65,527	928,101

### (4) X(エックス)の管理

市民活動無関心層から法人経営者層まで全ての層を対象に、ホームページ、ブログの更新状況等、サポートセンターからのお知らせを拡散させるためにXを運用した。

フォロワー数は、令和4年度末時点は916人だったのに対し、令和5年度末には1,190人まで増加。地域や社会の課題に関心がある人や、サポートセンター主催事業参加者などからのフォロワーがあり、リポストで流れてきた情報を見て講座に参加した人もいた。様々なキーワードをきっかけにサポートセンターや多様な市民活動に触れる機会につながっており、市民活動無関心層へ情報を届ける役割を果たしている。

#### (5) YouTube チャンネル「サポセンちゃんねる」の管理

市民活動関心層から団体運営者層を対象に、市民活動や協働に関する動画や、サポートセンターで実施した事業の動画をアーカイブとして発信することで、市民活動のすそ野を広げ協働の理解促進を図った。

チャンネル登録者数は、令和5年度末時点で40人(令和4年度末時点30人)。新たに動画を1本公開し、動画は計10本となった。そのほか、TOHOKU360とサポセンが協働で行うインターネット配信番組「いづいっちゃんねる」を再生リストへ随時追加し、視聴を促した。

##### <令和5年度公開した動画の視聴回数(令和5年度末時点)>

公開日	動画名	視聴数
令和5年 5月30日	【協働の現場トーク!】まちづくりの拠点を活かす協働 ございん八木山の協働現場から	126回

「サポセンちゃんねる」の動画は、サポートセンターの他事業にも活用された。連続講座「協働ゼミ」では、協働に関する基本的な知識を知ってもらうための事前課題として、「はじめての協働」の視聴を推奨。また9月に社会教育士を目指す学生らの研修を受け入れた際には、サポートセンターやNPOの概要を理解してもらうために「サポセンって何だろう?~もっと知りたい!仙台市市民活動サポートセンター~」や、「NPOって何だろう?」を活用した。

#### (6) NPO 法人向け助成金情報メールマガジンの運用

令和4年度に引き続き、仙台市からの依頼により、仙台市内NPO法人の資金調達の機会を増やすことを目的に、助成金情報や団体運営に役立つ講座などの情報をメールマガジンとして届けた。発行は毎週火曜日で、1回につき5~10件(年間の情報掲載件数はのべ321件)発信。

令和5年度末時点の登録者数は165件(令和4年度登録者数は86件)。相談対応の際などに登録を促したことで、徐々に登録者数が増えてきている。

## 4. 相談・問い合わせ対応

### (1) 目的

市民活動支援施設として、①施設の活用を含めた利用相談(施設利用)、②市民活動に関わる情報発信及び収集支援(施設サービス)、③専門性を要する市民活動を行う上での個別の運営等の相談(活動相談)を実施し、個人から団体、行政や企業など幅広い主体者に対し、情報の提供や経営相談など専門的な幅広い支援を行った。

### (2) 概要

施設開館時間内に、予約の有無を問わず、市民活動に関わる相談を無料にて実施した。

主に窓口にて行う施設利用判断や市民活動団体の情報提供と、NPO法人の立ち上げや団体運営や資金調達など個別の事案に対して、窓口や電話を問わず相談対応する個別対応がある。

### (3) 集計方法に関して

相談事業の集計項目は、相談者主体については、市民(個人)、市民活動団体、町内会、企業(営利組織)、大学(教育機関)、行政、その他に分類。また、対応内容については、自立、連携、創発、情報、その他に分類した。集計結果については次の3種類の方法で行った。

#### ① 相談サマリー

貸室利用やチラシ配架など、施設利用の問合せを【窓口】、活動内容や運営相談などを【相談】、これらに当てはまらない対応を行った場合に【その他】、事業参加者の所属を集計する【事業】に分類。事業参加者の意見も合わせて記録することにより、利用者サービスの向上に役立てている。ただし、センター事業に複数回参加した場合はカウントされないため、各事業参加者の総数と相談サマリーにおける【事業】集計は一致しない。

#### ② 相談集計結果【主訴－相談主体】

上述の相談サマリーのうち【相談】について、相談主体の属性と相談主訴を詳細に集計した。自立・連携・創発の理念に基づいた12項目と細かい分類を行うことで、相談主体の状況に合わせた対応記録と、より具体的な相談の傾向を把握し、相談ニーズの分析を目指した。

横軸の【伴走】については、サポートセンター事業「伴走型相談による個別相談」該当候補の相談に関して、新規相談もしくは継続対応について集計した。

#### ③ 相談集計結果【内容－相談者】(複数選択あり)

例えば、NPO法人と協働する団体が同席した対応や、団体の立ち上げ相談の内容から助成金の相談に移行した場合など、複数の属性や内容を集計していなかった。そこで、対応した全ての内容・相談者を記録し、かつ複数選択を含めることで、柔軟に対応する集計を行った。

#### (4) 成果

##### ① 相談件数

相談件数は

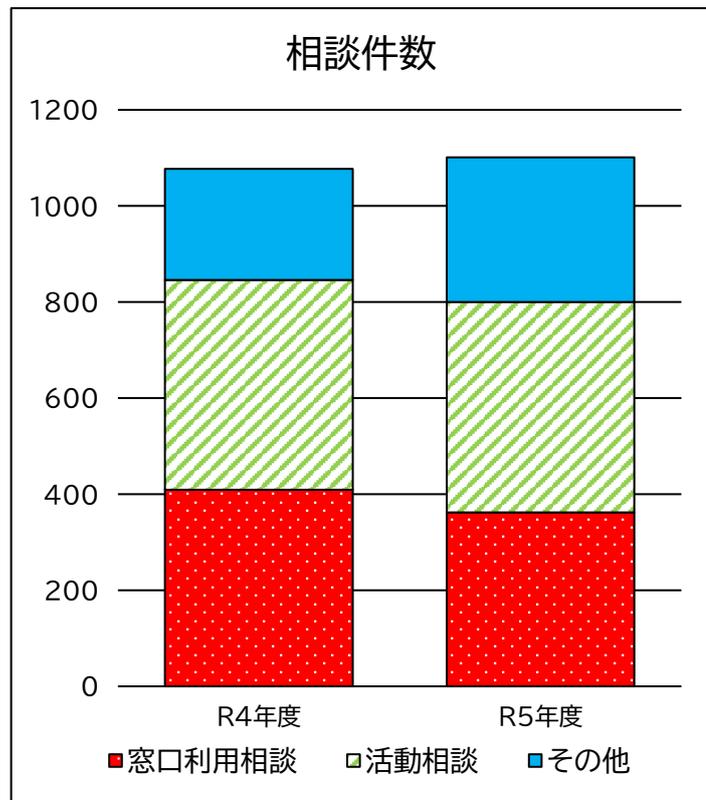
- ・貸室利用やチラシ配架など、施設利用の問合せを【窓口】(窓口利用相談)
- ・活動内容や運営相談などを【相談】(活動相談)
- ・これらに当てはまらない対応を行った場合に【その他】と分類し、集計。

令和5年度の相談件数は1,101件と、令和4年度の1,077件から24件増加。2年連続で1,000件を超えた。内訳は「窓口(窓口利用相談)」362件、「相談(活動相談)」438件、「その他」301件となった。

令和5年度は、令和4年度に引き続き、「相談(活動相談)」が「窓口(窓口利用相談)」を上まわった。(集計一覧：資料12-1参照)

相談種別	R4 年度		R5 年度		前年度比
	件数	構成比	件数	構成比	
窓口	409件	38%	362件	33%	89%
相談	437件	41%	438件	40%	100%
その他	231件	21%	301件	27%	130%
相談全体	1,077 件		1,101 件		102%

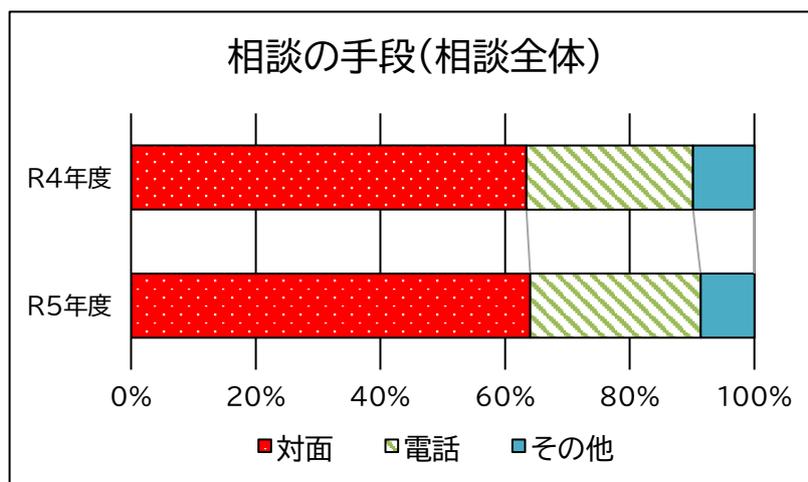
令和5年度の「相談(活動相談)」は令和4年度とほぼ同件数であった。「窓口(窓口利用相談)」は、令和4年度より47件減少。一方で「その他」は令和4年度より70件増加した。要因としては、「窓口利用相談」があった時に、利用案内に留まらず積極的に活動状況を聞き取った結果、活動の変化を情報収集し、「その他」として記録できたと考えられる。また、日頃から地域や活動の現場に出向き、NPO、町内会、企業、行政などとのコミュニケーションを取ったことが実を結び、報告や連絡をくれる関係性を築くことができた結果でもある。



② 相談の手段

「対面」での相談が705件(令和4年度683件、前年度比103%)、「電話」が301件(令和4年度288件、前年度比105%)、お問い合わせフォームやオンライン、メールでの相談などの「その他」が95件(令和4年度106件、前年度比90%)であった。「対面」と「電話」は増加したが、「その他」の相談はわずかに減少となった。

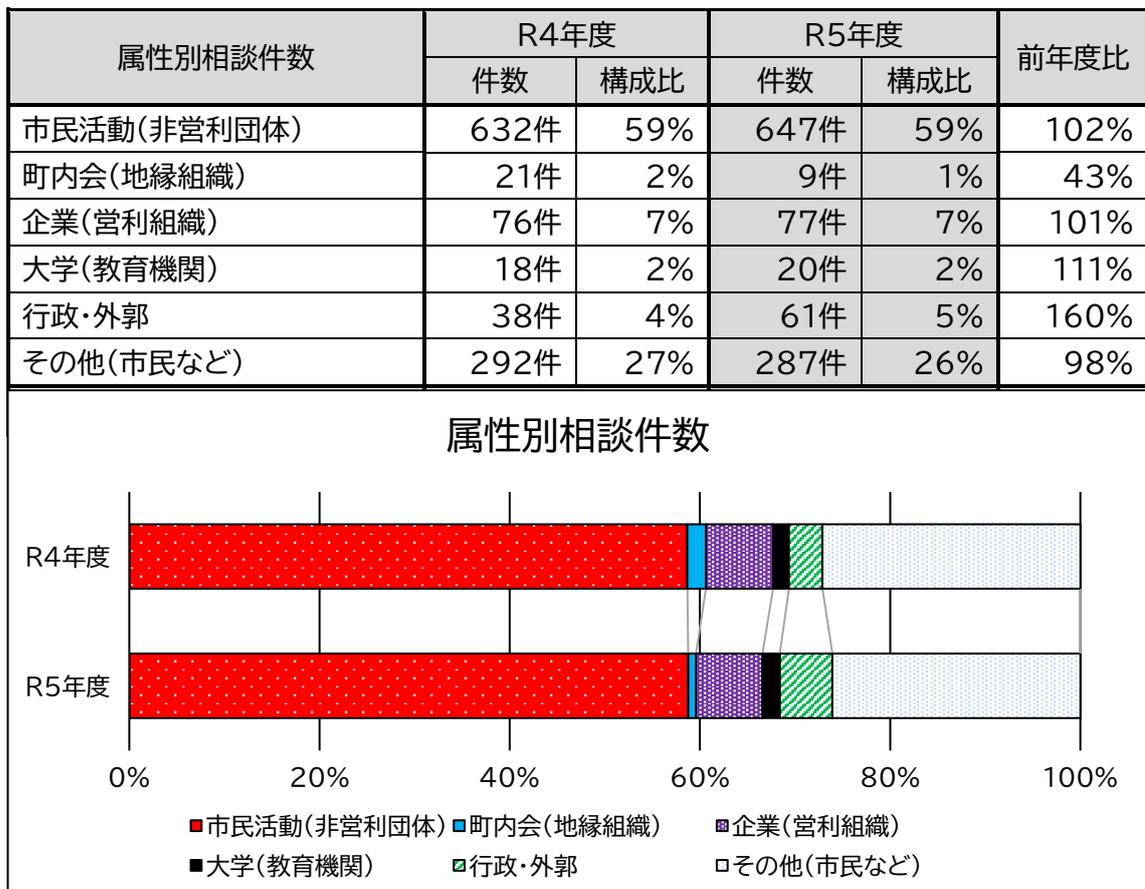
相談手段	R4年度		R5年度	
	件数	構成比	件数	構成比
対面	683件	63%	705件	64%
電話	288件	27%	301件	27%
その他	106件	10%	95件	9%
全体	1077件		1101件	



### ③ 相談全体における相談者の属性

「市民活動(非営利団体)」が647件(前年度比102%)、「企業(営利組織)」は77件(前年度比101%)「大学(教育機関)」が20件(前年度比111%)、「行政・外郭」が61件(前年度比160%)、と令和4年度より増加したが、一方で「町内会(地縁組織)」は9件(前年度比43%)と令和4年度の約半数に減り、「その他(市民など)」も287件(前年度比98%)と令和4年度よりわずかに減少した。「市民活動(非営利団体)」からの相談が全体の約6割を占めた。

(集計一覧:資料 12-1「相談サマリー」参照)



④ 活動相談における属性別相談件数

令和5年度の「活動相談」の相談件数は、令和4年度から横ばい。属性別の中で最も多い「市民活動(非営利団体)」も横ばいの件数となった(集計一覧:資料 12-1「相談サマリー」参照)。

「活動相談」を属性別に見ていくと、「町内会(地縁組織)」が令和4年度から減少した。要因として、令和4年度は仙台市が実施している「地域づくりパートナープロジェクト推進助成」への応募を考えた、事前相談やその後も継続して対応した相談が多かったためであり、令和5年度は事前相談に申し込んだ町内会自体が少なかったため減少した。

「企業(営利組織)」からの活動相談は、相談件数自体は令和4年度より減少したが、相談対応した企業数は増加した。また、新しい取り組みとして「企業ヒアリング」を実施(P69～「6. 事業報告 事業5 調査研究事業」参照)。ヒアリングの際に相談対応に至ったものもあった。

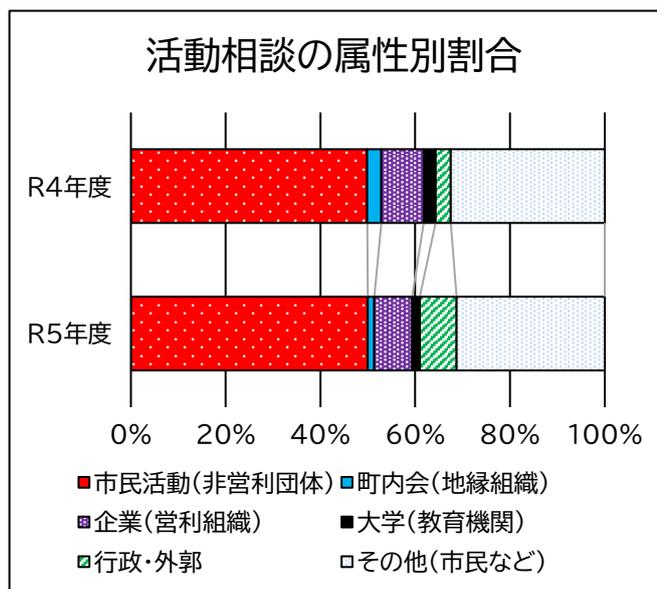
「大学(教育機関)」では、『ぱれっと』の取材から継続して対応した相談や、「地域づくりパートナープロジェクト推進助成」への申請を考えた事前相談、「協働実践者の活用」による連携の繋がりがからの相談となった。

「行政・外郭」からの相談は、令和4年度の約2.5倍に増加した。このうち、半数以上が「仙台まちづくり若者ラボ2023(以下、若者ラボ)」に参加したチームからの相談だった。令和5年度

は若者ラボのメンターミーティングにサポートセンターのスタッフが参加して相談機能を積極的に周知した他、各チームの活動の現場に足を運び必

要に応じて情報提供したため、相談件数の増加につながった。若者ラボの他の「行政・外郭」からの相談は、仙台市太白区、青葉区、宮城野区、若林区のまちづくり推進課や泉区泉中央地区活性化推進室との情報収集・提供、環境共生課と生涯学習支援センターからの、市民活動団体からの相談をサポートセンターに引継ぎたいとの連絡など。仙台市市民文化事業団から、「2024 年度 文化芸術を地域に生かす創造支援事業」採択団体の伴走支援における連携打診の相談もあった。

活動相談における属性別相談件数	R4年度		R5年度		前年度比
	件数	構成比	件数	構成比	
市民活動(非営利団体)	218件	50%	219件	50%	100%
町内会(地縁組織)	13件	3%	6件	1%	46%
企業(営利組織)	39件	9%	35件	8%	90%
大学(教育機関)	11件	3%	7件	2%	64%
行政・外郭	14件	3%	34件	8%	243%
その他(市民など)	142件	32%	137件	31%	96%
全体	437件		438件		100%



⑤ 相談主訴

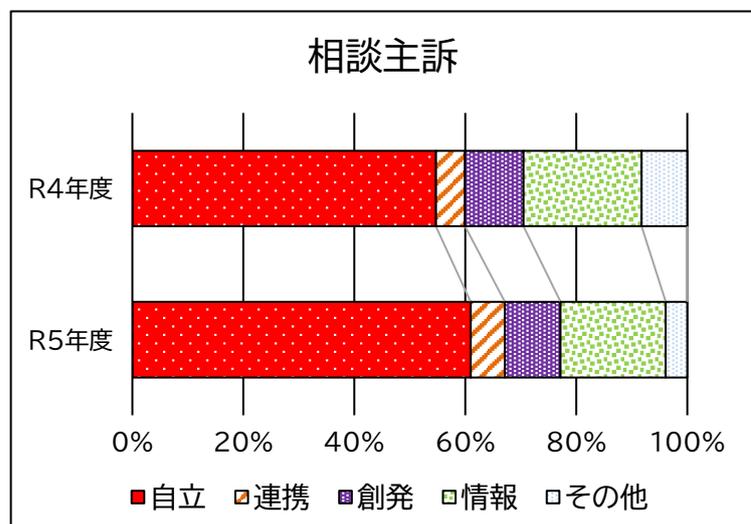
「活動相談」では、相談の主訴を「協働によるまちづくりの推進のための基本方針」(平成28年策定)であげられている「自立」「連携」「創発」の3つに「情報」「その他」を加えた5つに分類・集計した。

「自立」は活動の立ち上げに向けた想いの整理や、組織の運営についての相談。「連携」は多様な主体との協働についての相談。「創発」は政策の提言や制度の利用についての相談。「情報」は制度や活動などの情報収集。「その他」は何かしらの課題を抱えた当事者からの相談やサポートセンターへの視察、またここまであげたものに当てはまらないものを分類した。

「自立」段階の活動相談は267件と、令和4年度の239件と比較して112%に増加した。サポートセンターに寄せられた「活動相談」の61%が「自立」段階の相談だった。この「自立」の段階は更に3つに分類され、「課題解決に取り組もうとする段階」の相談が71件と令和4年度の91件から減少した。一方で、「組織運営基盤(事務局運営・税務・労務・会計・資金・人材・労務等)に関する相談」は144件と令和4年度の97件から大幅に増加した(資料一覧:資料12-2参照)。

「連携」の段階の相談は、令和4年度からわずかに増加。市民活動団体からは、他団体と連携したいという相談、外郭団体からはサポートセンターとの連携についての相談があった。他、「市民協働事業提案制度」への応募を考えて、連携できる仙台市担当課の想定を一緒に考えるなどした。

主訴	R4年度		R5年度		前年度比
	件数	構成比	件数	構成比	
自立	239件	55%	267件	61%	112%
連携	23件	5%	27件	6%	117%
創発	46件	11%	44件	10%	96%
情報	93件	21%	83件	19%	89%
その他	36件	8%	17件	4%	47%
全体	437件		438件		100%



### ⑥ 相談主体別—相談主訴

相談主体別に相談主訴を見ると、全ての相談主体で、「自立」の段階の相談が最も多かった。「市民活動団体(非営利団体)」では、「組織運営基盤(事務局運営・税務・労務・会計・資金・人材・労務等)に関する相談」が111件あった(資料一覧:資料 12-2「相談集計結果【主訴—相談主体】」参照)。任意団体では、事務局運営の今後の方針、法人化の妥当性、法人設立に向けた相談、NPO 法人では、法人の解散に向けた相談、資金調達に関する相談など、多様な相談があった。

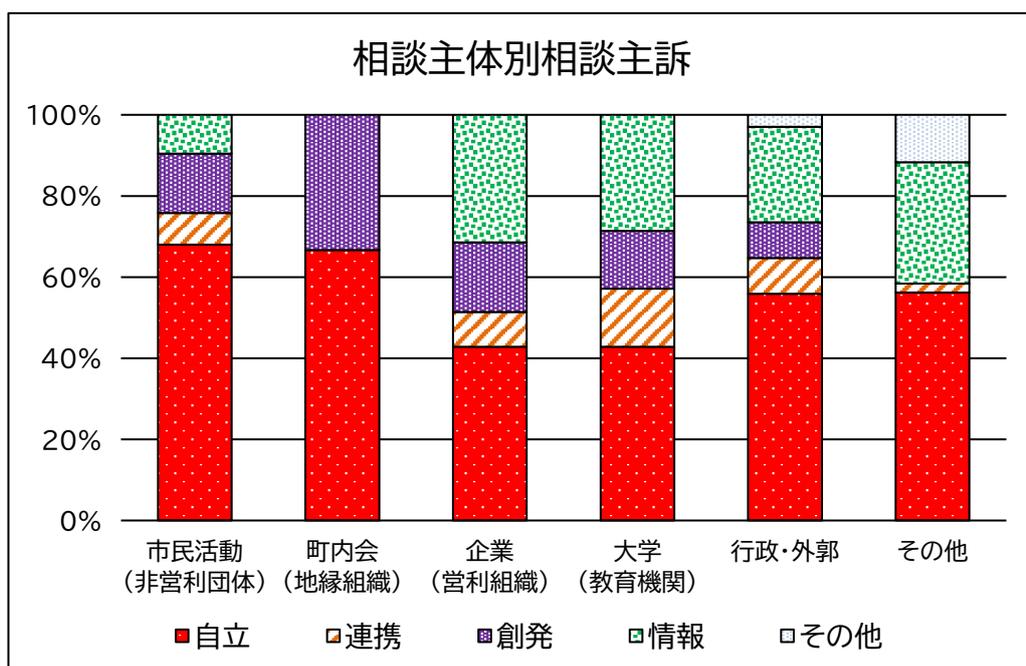
「行政・外郭」では、「自立」の相談が19件で、殆どが「若者ラボ」での相談対応となった。情報提供から「仙台防災未来フォーラム2024」へのブース出展に繋がった他、サポートセンターの機関誌『ぱれっと』でもチームの取り組みや、成果物を紹介し、広報支援に繋がった。

「企業(営利組織)」からの相談では、本社の方針で社会貢献事業を始めることになったとの相談があった一方、新型コロナウイルス感染拡大以降、会社が収益事業に力を入れるため社会貢献事業を終了することになったとの報告もあり、企業によって状況が異なった。

「その他・市民」では、まだ組織化していない個人から、活動の立ち上げや活動に参加したいという相談などがあった。

継続対応中の相談が70件。助成金申請などの資金調達、メンバー募集、広報戦略の相談などで継続的に対応した。

属性別 主訴	市民 活動	町内会	企業	大学	行政・ 外郭	その他	合計
自立	149件	4件	15件	3件	19件	77件	267件
連携	17件	0件	3件	1件	3件	3件	27件
創発	32件	2件	6件	1件	3件	0件	44件
情報	21件	0件	11件	2件	8件	41件	83件
その他	0件	0件	0件	0件	1件	16件	17件
合計	219件	6件	35件	7件	34件	137件	438件



⑦ 相談主体別一相談内容(複数選択あり)

ここで件数としてあげているのは、1件の相談の中に含まれる主たる相談種別の他に副訴として選択できたものを複数あげている為、件数の増減は相談の傾向として判断する。

活動相談の内容・相談者について複数選択による集計結果を見ると「自立」の段階の相談が357件で最多であった。「連携」は78件、「創発」は55件、「情報」は208件、「その他」は47件となった(資料一覧:資料12-3「相談集計結果【内容一相談者】参照)。

「情報」208件の内訳は、市民が最多で72件、次いで任意団体が54件だった。ここから、「情報」以外の相談が主訴である時、併せて何かしらの情報収集・提供を行うケースが多いことがわかる。

⑧ その他

仙台市市民協働推進課の「市民協働事業提案制度」と「地域づくりパートナープロジェクト推進助成」の事前相談に対応した。

○「市民協働事業提案制度」事前相談

令和6年度実施事業の事前相談(令和5年8月～9月) 12件

○「地域づくりパートナープロジェクト推進助成」事前相談

令和6年度実施事業の事前相談(令和5年10月～12月) 16件

平成28年度から、せんだい創業支援ネットワークの構成団体として、公益財団法人仙台市産業振興事業団が運営する仙台市企業支援センター「アシ☆スタ」と連携し、「起業・創業なんでも相談DAY」に出張相談員として参画している。令和5年度は年間を通し、2件の相談に対応した。

## 5. 交流・連携・その他

### 5-1. 外部組織との連携

他組織とサポートセンターの連携を深め、効果的な管理・運営を行うため、下記の定例会や評議会などへ参加や、公的な業務へ協力を行った。

連携先	日程	内容
会議・事業連携等		
仙台市生涯学習支援センター	令和5年4月27日(木)	情報交換
宮城野区中央市民センター	令和5年4月28日(金)	情報交換
杜の都の市民環境教育・学習推進会議(FEEL Sendai)	令和5年4月28日(金)	定例会
	令和5年5月31日(水)	今後の進め方検討部会
	令和5年6月10日(土)	「環境社会実験未来プロジェクト in 仙台」審査会
	令和6年3月9日(土)	「環境社会実験未来プロジェクト in 仙台」最終報告会
	令和6年3月18日(月)	定例会
仙台市社会福祉協議会	令和5年6月21日(水)	ボランティア・市民活動ネットワーク会議
	令和5年9月28日(木)	
	令和5年6月27日(火)	評議員会
	令和5年11月28日(火)	
令和6年3月27日(水)		
宮城県雇用対策課	令和5年6月22日(木)	仙台市共催予定事業説明会
	令和5年8月21日(月)	「関西大学における防災・安全研究と教育」実施協力
みやぎ NPO プラザ	令和5年7月11日(火)	宮城県民会館・NPO プラザ複合施設建設に係る意見交換会
	令和5年7月27日(木)	県内市民活動支援施設ヒアリング対応
	令和5年10月6日(金)	NPO 支援施設オンライン情報交換会
仙台市商業・雇用支援課	令和5年8月24日(木)	「みやぎの就業体験プログラム」受入れ協力
仙台市	令和5年9月7日(木)	職場見学会受入れ協力
その他		
仙台市社会福祉協議会 宮城野区事務所	令和5年12月14日(木)	宮城野区つながりづくり交流会講師
仙台市地域政策課	令和6年1月11日(木)	「地域づくり担当職員研修」講師

## 5-2. 会議・研修

### (1) 会議

サポートセンターの管理・運営を円滑に、かつ効果的に行うため、下記のような各種会議(打ち合わせ)を開催した。

#### ○仙台市と指定管理者との定例打ち合わせ

開催頻度: 1回/月

所要時間: 約2時間/回

内容: 管理運営状況の報告・連絡・相談や懸案事項の協議

#### ○施設運営会議

開催頻度: 2回/月

所要時間: 約2時間/回

構成メンバー: センター長、副センター長、および各主任

内容: 各事業の進捗管理とサポートセンター運営に関する課題や懸案事項に関する協議

#### ○ケースミーティング・全体ミーティング

開催頻度: 2回/月(休館日活用)

所要時間: 1時間/回

内容: 相談業務および施設運営管理についての共有や研修

#### ○チームミーティング、部門会議、各事業ミーティング

随時開催

## (2)研修

外部研修では、日本 NPO センターが行う初任者研修やワークショップなど多くの講習のほか、仙台市主催の研修に対しても積極的に参加した。内部研修としては知識として知っておくべき助成金やインボイスなどをテーマに行い、知識を深める機会とした。

### ■外部研修

外部研修	日程	人数
日本 NPO センター 「NPO/NGO の組織基盤強化のためのワークショップ 2023」	令和5年5月25日(木)	2名
	令和5年6月9日(金)	1名
社の伝言板ゆるる「法人化 20 周年記念フォーラム」	令和5年6月25日(日)	1名
仙台市行政デジタル推進課「情報管理者研修(応用編)」	令和5年7月13日(木)	1名
日本 NPO センター「初任者研修」	令和5年8月1日(火)	1名
	令和5年8月23日(水)	
日本 NPO センター「NPO/NGO『支援力』応援プログラム 現場の声から学ぶ！組織診断サポート研修」	令和5年8月8日(火)	1名
	令和5年8月18日(金)	
仙台市生活安全課「令和 5 年度不当要求行為等対応講習会」	令和5年8月18日(金)	1名
仙台市地域政策課「令和 5 年度地域づくり担当職員研修」	令和5年8月30日(水)	1名
日本 NPO センター「初任者研修」	令和5年9月6日(水)	1名
みやぎ NPO プラザ 「NPO のためのリーダーシップ&チームマネジメント講座」	令和5年10月5日(木)	1名
東京ボランティア・市民活動センター 「相談力ブラッシュアップ講座」	令和5年10月31日(火)	1名
みやぎ NPO プラザ 「NPO 支援に効果的な事業企画の作り方」	令和5年 11月9日(木)	2名
仙台市社会福祉協議会 「2023企業の社会貢献・CSR セミナー」	令和5年11月10日(金)	1名
宮城県社会福祉協議会「ボランティアコーディネーター研修」	令和5年 12月8日(金)	1名
みやぎ NPO プラザ「どうする？官民連携」	令和6年1月20日(土)	1名
みやぎ NPO プラザ「NPO の世代交代と事業継承を考える」	令和6年1月21日(日)	1名
演劇工房 10-BOX 舞台スタッフ・ラボ参加	令和6年2月3日(土)、 2月6日(火)-9日(金)	1名
みやぎ NPO プラザ「NPO と地域の『つなぎ手』となるために」	令和6年2月15日(木)	1名
「市民の参加と協働を進めるコーディネーション研究集会 2024」	令和6年2月23日(金)	2名
	令和6年2月24日(土)	

### ■内部研修

内部研修	日程	人数
思いの整理	令和5年5月10日(水)	全職員対象
続・NPOいろは塾	令和5年6月14日(水)	全職員対象
助成金講座	令和5年7月12日(水)	全職員対象
広報戦略講座	令和5年8月9日(水)	全職員対象
インボイス発行について	令和5年9月27日(水)	全職員対象
無理なく活動を続けるコツ	令和5年11月8日(水)	全職員対象

### 5-3. 視察・見学対応

令和5年度の視察・見学による来訪者の件数は56件(前年度比1件減)。来訪者数は115人だった。(集計一覧:資料13「視察・見学対応」参照)

来訪者の属性は、その他(学生・議員・公益法人)が46件で最多。そのほとんどが建築に関心のある学生だった。

来訪者属性(件数)	R4年度	R5年度
市民活動団体	7	2
行政関係者	4	3
企業関係者	6	4
その他(学生・議員・公益法人)	31	46
マスコミ取材	9	1
合計	57	56

## 5-4. 防災避難訓練

消防法に基づく防災避難訓練を実施した。

日程	実施時間	参加	訓練種別
令和5年9月13日(水)	15:00~16:30	14人	消火訓練/通報訓練 避難訓練
令和6年2月14日(水)		14人	設備操作訓練

### 訓練の目的

〔不特定多数が利用する施設としての火災・地震発災時の避難誘導の手順を共有する〕

- 施設利用者へのパニック防止を目的とした情報提供の実施確認(館内放送)
- 館内災害対応設備及び感染予防備品の確認(施設設備・災害対応備品)

### 訓練の内容

- 防災設備・備品の種類、設置場所、使用方法の確認
- 想定災害による避難誘導訓練(消防訓練カード使用)
- 通報訓練(内線にて防火管理者が通報を受け取る)

消防計画に定めた年2回の消防訓練は、令和5年9月13日(水)及び令和6年2月14日(水)に「防災設備・備品の種類、設置場所、使用方法の確認」「避難誘導訓練」を主な内容として行った。「避難誘導訓練」は両日とも火災を想定しての訓練とした。

令和4年度に引き続き「消防訓練カード」を使用しての避難誘導訓練を実施した。火災が発生した想定でスタッフが避難誘導行動を行い、館内各所に設置してあるカードに書かれた状況(例:セミナーホールの出入り口に人が殺到している。けが人はいない)について対応を考え行動し、終了後にそれぞれとった対応について発表、意見交換・行動の共有を行った。

いずれの回においても、中央監視システムの見方、館内放送、消火栓および消火器の設置状況及び操作方法などについて改めて確認をしている。訓練後の意見交換ではそれぞれの対応や行動の良かった点・改善が必要な点をスタッフ間で共有した。

## 5-5 施設の維持管理

令和5年度は大規模工事・修繕はなかったが、いくつか補修工事を行った。また、印刷機をはじめとした使用頻度の高い備品・設備での不具合が多発し、その都度、保守修繕を行った。

### ■6階男子トイレ修繕

7月に小便器の1台で水が止まらない不具合が発生。センサーの不良が原因とみられ、センサーを取り換える工事を行った。工事の際、大きな音が発生するとのことだったため、すでに6階セミナーホールの申し込みが入っている期間を避け、令和6年3月に修繕工事を行った。修繕工事までの間は、故障した小便器1台のみ「故障中」の張り紙をして使用休止とした。

### ■市民活動シアター 倉庫天井の修繕工事

利用者の目につきにくい部分ではあるが、倉庫の天井の一部に大きな穴が開いていたため、令和5年5月に修繕工事を行った。

### ■5階交流サロン配線工事

椅子の出し入れの際ひっかかる懸念があった5階交流サロンの電源コンセントの配置を、椅子の出し入れに影響しない位置へ変更する工事を行った。

### ■ロッカー扉交換・台交換

令和4年度にも、鍵の不具合により扉を交換した台があったが、令和5年度も劣化が原因とみられる不具合が続出したため、令和5年6月28日(水)にロッカー大2台の扉を交換、ロッカー中4台で、ロッカーごと入れ替えを行った。

### ■Wi-Fi 機器故障

館内設置の Free Wi-Fi のうち、7階および3階で接続できない不具合が7月に発生。3階の研修室3~5を利用予定の団体に電話連絡し、Wi-Fi 利用が必須の団体については空いている他の階の貸室への振り替えで対応した。事務ブース入居団体にはポケット Wi-Fi の貸出を行った。9月にそれぞれ機器を入れ替えて使用再開。その後10月に1階でも接続できなくなり、12月に機器を入れ替えた。

### ■内線電話故障

4階研修室5の内線電話が7月に故障、8月に取替を完了した。その後3月に6階セミナーホールの電話機も故障(令和6年4月に電話機を交換予定)。いずれも機器の劣化が原因だった。

### ■印刷機紙詰まり頻発

8月に印刷機で紙詰まりが頻発し、調整したものの改善されなかったため一時貸し出しを停止し業者による保守点検と修繕を行った。その後11月に再発。改めて業者による保守点検を行ったがその日のうちに同様の不具合が発生した。その後も断続的に使用できない状態が続いたが、1月以降は不具合が解消された。

#### ■印刷機コインバンダー故障

令和5年11月にエラーが表示され使用ができなくなった。内部機構の一部が経年劣化によって変形したことが原因、応急処置を業者が施したものの再発したため、部品が届くまでの5日間、印刷機の利用を休止した。

#### ■利用者コピー機レシートプリンター故障

利用者が誤ってレシートプリンターの電源を切ってしまったことでエラーが発生、コピー機利用後にレシートが出ない状態となった。業者が対応し復旧。その後、電源を落とさないように注意喚起のテープをレシートプリンターの電源ボタンに貼りつけた。

#### ■利用者パソコン故障

利用者パソコンのうち1台で「起動に失敗しました」という表示がされ起動不可能となった。業者による点検で内部 HDD の破損が原因であることが判明。HDD の交換とソフトの再インストールを行った。

## 6. 事業報告

事業 1	情報収集提供事業	P41
事業 2	相談事業	P47
事業 3	人材育成事業	P51
事業 4	協働に関する理解促進及び機会創出事業	P63
事業 5	調査研究事業	P69



## 個別事業報告書

【事業 1】情報収集提供事業	
事業目的	1. 多彩な市民活動や、市民が気づいた地域の課題、協働による課題解決の取組みなどについて、活発に情報受発信される環境を整える。 2. 市民活動と協働について広く市民へ伝える。 3. 市民目線での情報発信を活性化する。
成果目標	・市民が団体情報や活動に有益な情報に触れる機会を増やす。 ・まちづくりに関心を持ち、取り組む人材を増やす。
実施目標	・ ブログの訪問者数(ユニークユーザー)年間 40,000 件以上 ・ ブログ投稿数 250 件以上 ・ 事業者の社会貢献活動の紹介 年間 5 件以上
成果	<b>1. 市民活動、協働等に関する情報の収集提供業務全般</b> <b>(1) 市民活動、協働等に関する情報の収集および提供</b> ① マチノワひろば 展示数: 12 企画 内、自己使用 2 企画 (令和 4 年度 13 企画 内、自己使用 4 企画) ② マチノワギャラリー 展示数: 12 企画 内、自己使用 1 企画 (令和 4 年度 12 企画 内、自己使用 1 企画) <b>(2) 市民活動、協働等に関する図書資料の収集、管理及び貸出</b> P19「3-4. 図書の貸出」参照 <b>(3) 市民活動団体等のチラシ、ポスター等の受付、掲示及び関係施設への配布</b> P16「3-1. 情報掲示等利用」参照 <b>(4) サポートセンターのホームページの管理及び更新</b> P21「3-5. 情報発信 (2) ホームページの管理」参照 <b>(5) そのほか情報収集提供業務全般</b> P22「3-5. 情報発信 (3) ブログの管理」参照 P22「3-5. 情報発信 (4) X(エックス)の管理」参照 P23「3-5. 情報発信 (5) YouTube チャンネル『サポセンちゃんねる』の管理」 参照 P23「3-5. 情報発信 (6) NPO 法人向け助成金情報メールマガジンの運用」参照 <b>2. 機関誌『ぱれっと』の発行</b> 「3-5. 情報発信 (1) サポートセンター通信『ぱれっと』の発行」参照

### 3.市民ライターの育成

#### ①地域メディア談話室

- ・令和5年5月から令和6年3月にかけて計11回実施。
- ・地域の情報発信に興味がある人・すでに発信している人など計52名参加した。
- ・発信活動の悩みを相談し合うことで、解決へのヒントにつながった。
- ・多様なアイデアが生まれ、活動者の発信の工夫に役立った。
- ・情報を受け取るだけだったメディアに対し、発信の意図を考えるようになった参加者もあり、市民のメディアリテラシー向上に貢献できた。
- ・7名のリピーター参加があった。過去「市民ライター講座」受講者や、令和4年度「地域メディア談話室」参加者もあり、市民目線による地域情報の発信活動を行う人たちのための情報交換や、モチベーション維持の場として活用された。

#### ②市民目線での情報発信促進(伴走支援)

- ・音楽で人やまちをつなぐ音楽情報サイト OtoHub の運営や、音楽に関わる人同士のゆるやかなつながりづくりを目的に活動する MUSIC HUB PROJECT と共催で「OtoHub 説明会&交流会」を3回実施。計52名が参加。  
音楽に関わる多様な人たちがジャンル、活動形態の垣根を越えて集まり、共通の課題について意見・情報交換を行ったことで、それぞれが得意スキルを持ち寄って助け合えるつながりが生まれた。また、これにより当初2名だった MUSIC HUB PROJECT のコアメンバーも10名以上増加。同団体の組織基盤づくりに貢献できた。
- ・「地域メディア談話室」で話題に上がった場所に同イベント参加者や市民ライター(過去「市民ライター講座」受講者)などの有志で出向く「お出掛け企画」を1回実施し2名が参加。地域情報発信への一歩を後押しできた。
- ・「地域メディア談話室」参加者による共通ハッシュタグ「#めみみー」の投稿が複数上げられたことから、発信のきっかけづくりとしての役割を果たせた。

#### ③市民ライター課外活動

- ・市民ライター1名が、「いついっちゃんねる」(ゆる〜いコミュニティづくりの現場から)の視聴レポートを執筆。記事はローカルニュースサイト TOHOKU360 で公開され、読者に社会課題への気づきや自分にできるアクションを促した。
- ・尚絅学院高等学校で行われている「総合探求」の授業で、市民ライター1名が講演を行う際の橋渡しを行い、その後も相談役を担った。発信だけでなく発信の面白さを伝える市民ライターの活躍を支えることができた。
- ・発信するネタを探していた市民ライター1名が「地域メディア談話室」に参加し、ローカルニュースサイト TOHOKU360 で体験レポートを公開。新しい記事のアイデアに貢献でき、市民同士による情報の受発信を促進できた。

<p><b>課題</b></p>	<p>・市民活動無関心層にも情報を届けることにつながる、機関紙『ぱれっと』の新規送付先、配架協力先の開拓。          ・「地域メディア談話室」の知名度の低さおよび、仙台市内の地域メディア運営者や、地域の情報発信に関心のあるコミュニティ・個人とのつながりの少なさ。</p>																																									
<p><b>実施概要</b></p>	<p><b>1.市民活動、協働等に関する情報の収集提供業務全般</b>  <b>(1)市民活動、協働等に関する情報の収集および提供</b>  <b>①マチノワひろば</b></p> <table border="1" data-bbox="373 607 1382 1939"> <thead> <tr> <th data-bbox="373 607 663 651">期間</th> <th data-bbox="663 607 1062 651">企画</th> <th data-bbox="1062 607 1382 651">設置者・主催者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="373 651 663 741">令和5年4月1日(土)～4月30日(日)</td> <td data-bbox="663 651 1062 741">ソーシャルラボ「居住支援ロードマップ」展</td> <td data-bbox="1062 651 1382 741">せんだい・みやぎソーシャルハブ(自主企画)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="373 741 663 824">5月15日(月)～5月31日(水)</td> <td data-bbox="663 741 1062 824">難病の日にちなんで～難病とはなに？</td> <td data-bbox="1062 741 1382 824">NPO 法人宮城県患者家族団体連絡協議会</td> </tr> <tr> <td data-bbox="373 824 663 907">6月1日(木)～6月26日(月)</td> <td data-bbox="663 824 1062 907">Anego～華杜 Avenue～</td> <td data-bbox="1062 824 1382 907">Anego</td> </tr> <tr> <td data-bbox="373 907 663 990">7月2日(日)～7月31日(月)</td> <td data-bbox="663 907 1062 990">いじめ自殺防止の案内</td> <td data-bbox="1062 907 1382 990">リレーションシップ・みやぎ</td> </tr> <tr> <td data-bbox="373 990 663 1167">8月1日(火)～8月31日(木)</td> <td data-bbox="663 990 1062 1167">市民と社会のこれからを考える 30Days「私たちはどう生きるのか?～加藤哲夫さんの宿題を考える～」予習復習編</td> <td data-bbox="1062 990 1382 1167">NPO 法人せんだい・みやぎ NPO センター</td> </tr> <tr> <td data-bbox="373 1167 663 1294">9月2日(土)～9月30日(土)</td> <td data-bbox="663 1167 1062 1294">地域のこと、伝えてみよう！あなたも今日から「#めみみー」</td> <td data-bbox="1062 1167 1382 1294">サポートセンター(自主企画)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="373 1294 663 1377">10月1日(日)～10月31日(火)</td> <td data-bbox="663 1294 1062 1377">第 85 回広瀬川写真展</td> <td data-bbox="1062 1294 1382 1377">広瀬川の水質と景観を守る会</td> </tr> <tr> <td data-bbox="373 1377 663 1505">11月1日(水)～11月30日(木)</td> <td data-bbox="663 1377 1062 1505">あなたが変わればエイズのイメージが変わる。UPDATE HIV!</td> <td data-bbox="1062 1377 1382 1505">やろっこ</td> </tr> <tr> <td data-bbox="373 1505 663 1632">12月1日(金)～12月26日(火)</td> <td data-bbox="663 1505 1062 1632">宮城野原案内人の会 活動記録 仙石線の思い出～踏切に名板設置を～</td> <td data-bbox="1062 1505 1382 1632">宮城野原案内人の会</td> </tr> <tr> <td data-bbox="373 1632 663 1715">令和6年1月8日(月)～1月20日(水)</td> <td data-bbox="663 1632 1062 1715">仙台探検家</td> <td data-bbox="1062 1632 1382 1715">仙台探検家クラブ</td> </tr> <tr> <td data-bbox="373 1715 663 1843">2月22日(木)～3月14日(木)</td> <td data-bbox="663 1715 1062 1843">続・能登半島地震に学ぶ わたしたちのまちは何をしておく？</td> <td data-bbox="1062 1715 1382 1843">せんだい・みやぎソーシャルハブ(自主企画)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="373 1843 663 1939">3月15日(金)～3月31日(日)</td> <td data-bbox="663 1843 1062 1939">てんかん啓発キャンペーン「パープルデー」</td> <td data-bbox="1062 1843 1382 1939">公益社団法人日本てんかん協会宮城県支部</td> </tr> </tbody> </table>			期間	企画	設置者・主催者	令和5年4月1日(土)～4月30日(日)	ソーシャルラボ「居住支援ロードマップ」展	せんだい・みやぎソーシャルハブ(自主企画)	5月15日(月)～5月31日(水)	難病の日にちなんで～難病とはなに？	NPO 法人宮城県患者家族団体連絡協議会	6月1日(木)～6月26日(月)	Anego～華杜 Avenue～	Anego	7月2日(日)～7月31日(月)	いじめ自殺防止の案内	リレーションシップ・みやぎ	8月1日(火)～8月31日(木)	市民と社会のこれからを考える 30Days「私たちはどう生きるのか?～加藤哲夫さんの宿題を考える～」予習復習編	NPO 法人せんだい・みやぎ NPO センター	9月2日(土)～9月30日(土)	地域のこと、伝えてみよう！あなたも今日から「#めみみー」	サポートセンター(自主企画)	10月1日(日)～10月31日(火)	第 85 回広瀬川写真展	広瀬川の水質と景観を守る会	11月1日(水)～11月30日(木)	あなたが変わればエイズのイメージが変わる。UPDATE HIV!	やろっこ	12月1日(金)～12月26日(火)	宮城野原案内人の会 活動記録 仙石線の思い出～踏切に名板設置を～	宮城野原案内人の会	令和6年1月8日(月)～1月20日(水)	仙台探検家	仙台探検家クラブ	2月22日(木)～3月14日(木)	続・能登半島地震に学ぶ わたしたちのまちは何をしておく？	せんだい・みやぎソーシャルハブ(自主企画)	3月15日(金)～3月31日(日)	てんかん啓発キャンペーン「パープルデー」	公益社団法人日本てんかん協会宮城県支部
期間	企画	設置者・主催者																																								
令和5年4月1日(土)～4月30日(日)	ソーシャルラボ「居住支援ロードマップ」展	せんだい・みやぎソーシャルハブ(自主企画)																																								
5月15日(月)～5月31日(水)	難病の日にちなんで～難病とはなに？	NPO 法人宮城県患者家族団体連絡協議会																																								
6月1日(木)～6月26日(月)	Anego～華杜 Avenue～	Anego																																								
7月2日(日)～7月31日(月)	いじめ自殺防止の案内	リレーションシップ・みやぎ																																								
8月1日(火)～8月31日(木)	市民と社会のこれからを考える 30Days「私たちはどう生きるのか?～加藤哲夫さんの宿題を考える～」予習復習編	NPO 法人せんだい・みやぎ NPO センター																																								
9月2日(土)～9月30日(土)	地域のこと、伝えてみよう！あなたも今日から「#めみみー」	サポートセンター(自主企画)																																								
10月1日(日)～10月31日(火)	第 85 回広瀬川写真展	広瀬川の水質と景観を守る会																																								
11月1日(水)～11月30日(木)	あなたが変わればエイズのイメージが変わる。UPDATE HIV!	やろっこ																																								
12月1日(金)～12月26日(火)	宮城野原案内人の会 活動記録 仙石線の思い出～踏切に名板設置を～	宮城野原案内人の会																																								
令和6年1月8日(月)～1月20日(水)	仙台探検家	仙台探検家クラブ																																								
2月22日(木)～3月14日(木)	続・能登半島地震に学ぶ わたしたちのまちは何をしておく？	せんだい・みやぎソーシャルハブ(自主企画)																																								
3月15日(金)～3月31日(日)	てんかん啓発キャンペーン「パープルデー」	公益社団法人日本てんかん協会宮城県支部																																								

## ②マチノワギャラリー

期間	企画	設置者・主催者
令和5年4月1日(土) ～4月30日(日)	せんだい・みやぎソーシャルハ ブ 2022 年度の活動報告	せんだい・みやぎソーシ ャルハブ (自主企画)
5月3日(水) ～5月31日(水)	化学物質過敏症って何？	みやぎ化学物質過敏症 の会～ぴゅあい～
6月1日(木) ～6月30日(金)	多読カフェ	多読カフェ研究会
7月2日(日) ～7月31日(月)	いじめ自殺防止の案内	リレーションシップ・みや ぎ
8月1日(火) ～8月31日(木)	仙台自主夜間中学「学ぶこと は生きること」	仙台自主夜間中学
9月2日(土) ～9月29日(金)	りんりん倶楽部の「こんな活動 やってます♡」	りんりん倶楽部
10月1日(日) ～10月31日(火)	大学生が、社会のちょっと「い づい」ことに 気づいて発信し てみた	サポートセンター(自主 企画)
11月2日(土) ～11月28日(火)	第4回カード織り若葉展	カード織りあかつき会
12月1日(金) ～12月26日(火)	宮城野原案内人の会 活動記 録 仙石線の思い出～踏切に 名板設置を～	宮城野原案内人の会
令和6年1月4日(木) ～1月31日(水)	仙台手をつなぐ文庫の会 「～手をつないで 50 年～」	仙台手をつなぐ文庫の 会
2月1日(木) ～2月29日(木)	気候変動×貧困問題 エネルギ ー貧困の現場から	Fridays For Future Sendai
3月2日(土) ～3月29日(金)	ぶどうの木写真展「彩」	すい臓がん患者と家族 のおしゃべりサロンぶど うの木

### (2)市民活動、協働等に関する図書資料の収集、管理及び貸出

P19「3-4.図書の貸出」参照

### (3)市民活動団体等のチラシ、ポスター等の受付、掲示及び関係施設への配布

・仙台に情報の背骨を通すプロジェクト(骨プロ)担当者会議

日 時:令和5年5月18日(木)15:00～16:30

会 場:サポートセンター4階 研修室5

出席者:6施設、3所管部署から計11名

内 容:骨プロ主旨、チラシ受付の流れ・ルール説明、連携施設同士の情報交換

P16「3-1.情報掲示等利用」参照

### (4)サポートセンターのホームページの管理及び更新

P21「3-5.情報発信 (2)ホームページの管理」参照

(5)そのほか情報収集提供業務全般

P22「3-5.情報発信 (3)ブログの管理」参照

P22「3-5.情報発信 (4)X(エックス)の管理」参照

P23「3-5.情報発信 (5)YouTube チャンネル『サポセンちゃんねる』の管理」参照

P23「3-5.情報発信 (6)NPO 法人向け助成金情報メールマガジンの運用」参照

2.機関誌『ぱれっと』の発行

① 発行 毎月1日～5日の間 月／3,000部

② 仕様・構成

(1)仕様 A4 両面フルカラー(計8回)、A3 両面フルカラー(計4回)

(2)構成 下記、11コーナーから紙面編集に合わせて毎号選択し掲載する。

ワクワクビト／ちまたのコラボ(協働事例)／市民活動突撃レポート／今、私にできること／お役立ち本／コトハジメ／募集して☑／このたびカタチになりまして／私のあしあと／活動に＋／気になる〇〇

③ 工程

・1号あたり、編集会議から納品まで約1ヶ月半

・3号分の工程を同時進行(2チーム制 隔月進行)

3.市民ライターの育成

①地域メディア談話室

日時:令和5年5月～3月までの第二金曜日 18:30～20:00

会場:サポートセンター1階マチノワひろば

※9月8日のみ研修室5

ゲスト:7月14日 MUSIC HUB PROJECT

和田菜水子さん

9月8日 会いに来る七夕飾り

タナレッドさん、タナグリーンさん

3月8日 児童文学作家 佐々木ひとみさん

対象:地域のために何か発信してみたい方、

地域の情報発信をしている方、

ゲストの活動に興味がある方、

情報発信について情報交換したい方

定員:なし

参加費:無料

内容:ローカルメディアコンパス体験

情報発信の現場で起きた様々なエピソード

をもとにつくられたワークショップツール

「ローカルメディアコンパス」を用いての情報・意見交換。

まちネタ交換会

今気になっている地域の情報(まちネタ)を参加者同士交換し合う。

開催日	参加人数
令和5年 5月12日	3名
6月9日	3名
7月14日	5名
8月10日	4名
9月8日	13名
10月13日	2名
11月10日	1名
12月8日	3名
令和6年 1月12日	5名
2月9日	2名
3月8日	11名
合計	52名

②市民目線での情報発信促進(伴走支援)

- ・発信活動への一歩を後押しするパンフレット「めみみーを楽しむコツ」の配布
- ・共通#(ハッシュタグ)「#めみみー」を使った地域の情報発信の呼びかけ。
- ・相談者への進捗確認や次のアクション投げかけなどの積極的な関与
- ・MUSIC HUB PROJECT による音楽情報発信活動の伴走支援として「OtoHub 説明会&交流会」の開催

開催日時	会場	参加人数
令和5年 6月25日(日)10:00-12:00 14:00-16:00	サポートセンター研修室 5	10名 18名
7月25日(火)19:00-20:30	サポートセンター研修室 3	13名
令和6年 2月13日(月)19:00-20:30	サポートセンター研修室 5	11名
合計		52名

ゲスト:なし

対象:音楽イベントを行う個人・団体、音楽に関する情報を発信したい人

定員:なし

参加費:無料

内容:音楽情報サイト「OtoHub」の使い方や活用方法の説明

音楽活動に関する困りごと相談、交流

・お出掛け企画の実施

日時:令和5年12月10日(日)

会場:七北田公園内 NANA+ICHI カフェ

対象:市民ライター、地域メディア談話室参加者など

ゲスト:なし

参加人数:2名(定員なし)

参加費:無料

内容:カフェおびイルミネーションイベントなどのまちネタ収集・発信

③市民ライター課外活動

活動継続のための場や、地域情報の紹介

添付

■広報物 ■配布資料 □アンケート結果 ■その他(マチノワギャラリー・ひろば  
展示感想シート、ぱれっと、ぱれっと読者の声、)

## 個別事業報告書

【事業 2】相談事業	
事業目的	サポートセンター内外で多様な主体の相談に応じることのできる環境を整える。
成果目標	地域の課題に気づいた市民が課題解決に自ら取り組み、必要に応じて多様なまちづくりの主体が協働で課題解決に取り組める状況をつくる。
実施目標	年間相談件数 900 件、活動相談件数 400 件
成果	<p><b>1. 相談対応</b></p> <p>実施目標に対し、年間相談件数 1,101 件、うち活動相談件数438件と年間目標件数を達成した。</p> <p>(1)市民活動のはじめ方、市民活動団体の運営、法人格の取得等、市民活動全般に関する相談対応 P24～「4.相談・問い合わせ対応」参照</p> <p>(2)市民活動団体間の協働や、多様なまちづくりの主体間の協働を進めるために必要な相談対応</p> <p>①市民協働事業提案制度事前相談 令和6年度実施事業の事前相談(令和5年8月～9月)12件 会場:仙台市市民活動サポートセンター ※オンライン会場での相談0件</p> <p>②地域づくりパートナープロジェクト推進助成事業事前相談 令和6年度実施事業の事前相談(令和5年10月～12月)16件 会場:仙台市市民活動サポートセンター ※オンライン会場での相談4件</p> <p>(3)相談ツールの活用</p> <p>①市民活動お役立ち情報 P18「3-3.市民活動団体への情報提供」参照</p> <p>②動画版「市民活動お役立ち情報」 P18「3-3.市民活動団体への情報提供」参照</p> <p><b>2. 伴走相談・アウトリーチ相談</b></p> <p>(1)伴走相談 継続対応中の伴走相談は令和4年度の43件から70件に増加。活動の段階に応じた継続的な相談対応を実施することができた。</p> <p>(2)アウトリーチ相談</p> <p>①アシ☆スタ起業・創業なんでも相談 DAY 公益財団法人仙台市産業振興事業団が運営する仙台市起業支援センター「アシ☆スタ」主催の「起業・創業なんでも相談DAY」に出張相談員として参加。年間を通して、2件の相談に対応した。</p> <p>②その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アウトリーチ相談として37件の現場訪問を行った。</li> <li>・新規伴走相談候補として対応をしたのは19件あり、継続伴走相談として対応したのは70件あった。</li> </ul>

	<p><b>3.協働実践者の活用</b>  協働を実践している現場を訪問し、関係者と顔が見える関係を構築することを目的として企業・団体等を訪問した。令和5年度は、協働実践者同席による専門相談を2件コーディネートした。</p>
<p><b>課題</b></p>	<p><b>1.相談対応</b>  サポートセンターの相談機能の認知度が低く、サポートセンターの貸室・交流サロンの利用者でも知らない活動者が多い。「相談チラシ」を活用しきれていない。</p> <p><b>2.伴走相談・アウトリーチ相談</b>  ・幅広い相談に対応していくために、スタッフのスキルアップと、知識を共有する為の学習機会を増やす必要がある。</p> <p><b>3.協働実践者の活用</b>  相談対応の中で他団体へつなぐ対応をした中に、協働実践者として専門相談をお願いできそうな事例があった(事業をうまく活用できなかった)。</p>
<p><b>実施概要</b></p>	<p><b>1.相談対応</b></p> <p>(1)市民活動のはじめ方、市民活動団体の運営、法人格の取得等、市民活動全般に関する相談対応  P24～「4.相談・問い合わせ対応」参照</p> <p>(2)市民活動団体間の協働や、多様なまちづくりの主体間の協働を進めるために必要な相談対応</p> <p>①市民協働事業提案制度事前相談  令和6年度実施事業の事前相談(令和5年8月～9月)</p> <p>②地域づくりパートナープロジェクト推進助成事業事前相談  令和6年度実施事業の事前相談(令和5年11月～12月)</p> <p>③その他の協働に関する相談  P24～「4.相談・問い合わせ対応」参照</p> <p>(3)相談ツールの活用</p> <p>①市民活動お役立ち情報  令和4年度に「お役立ち情報」全種をリニューアルした為、サポセン1階に配架するとともに、サポートセンターHPからもダウンロードできるようにした。  P18「3-3.市民活動団体への情報提供」参照</p> <p>②動画版「市民活動お役立ち情報」  以下の動画がサポートセンターHPで公開されているため、いつでも閲覧可能。  ・「サポセンって何だろう?～もっと知りたい!仙台市市民活動サポートセンター～」(令和4年8月17日(水)公開)  ・「NPOって何だろう?」(令和4年2月3日(木)公開)  ・「はじめての協働」(令和3年8月19日(木)公開)</p>

## 2. 伴走相談・アウトリーチ相談

### (1) 伴走相談

思いの整理から、立ち上げ相談、法人設立、事業計画や広報相談など行う他、フォローアップをするなどして、求めに応じて継続的な相談に対応する。令和5年度「活動相談」では、70件の継続相談に対応した。

- ・事業1では、「MUSIC HUB PROJECT」という市民メディアの活動を伴走支援中(P41～「6. 事業報告 事業1 情報収集提供事業」参照)

### (2) アウトリーチ相談

#### ① アシスタ起業・創業なんでも相談 DAY

公益財団法人仙台市産業振興事業団が運営する仙台市起業支援センター「アシスタ」主催の「企業・創業なんでも相談DAY」に出張相談員として参加。

実施日時: 毎月第3水曜日 13時30分～16時30分

#### ② その他

##### ○ まちづくり活動助成事業

以下、事業報告会、事業計画説明会を見学し情報収集を行った。

- ・令和6年1月31日(水) 令和5年度若林区まちづくり活動助成事業報告会
- ・令和6年2月3日(土) 令和5年度太白区まちづくり活動助成事業報告会
- ・令和6年2月5日(月) 令和5年度宮城野区まちづくり活動助成事業報告会
- ・令和6年2月27日(火) 令和6年度青葉区まちづくり活動助成事業説明会
- ・令和6年3月7日(木) 令和6年度青葉区まちづくり活動助成金事業計画説明会
- ・令和6年3月8日(金) 令和6年度宮城野区まちづくり活動助成事業計画説明会

##### ○ 活動の現場を訪問してのアウトリーチ相談37件から、一部抜粋して以下に記載

- ・令和5年5月14日(日) NPO法人楽知ん研究所
- ・令和5年5月20日(土) NPO法人フードバンク仙台
- ・令和5年11月26日(日) 一般社団法人東北駆け込み寺
- ・令和5年12月23日(土) 一般社団法人ながまちマチキチ
- ・令和6年1月6日(土) グループわらじ
- ・令和6年2月2日(金) 東仙台地域包括支援センター
- ・2月20日(土) 食日和みつけ
- ・3月9日(土) 「若者ラボ」防災チーム

## 2. 協働実践者の活用

協働によるまちづくりを実践している現場を訪問し、協働の実践者やコーディネーター的な役割を担うキーパーソン等と顔が見える関係を構築し、協働を進めるために必要な支援について情報収集、情報共有を行った。

### ① 協働実践者による専門相談

- ・令和5年10月17日(火)  
NPO法人地域生活支援オレンジねっとへ相談者と訪問
- ・令和6年1月31日(水)  
NPO法人シニアサロン井戸端会議  
(相談者欠席のため、サポートセンタースタッフが相談者に代わって相談)

	<p>① 協働現場の訪問・関係作り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○仙台スポーツサポーターズネットワーク(SSSN) <ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年5月16日(火)、6月20日(火)、7月18日(火)、8月22日(火)、9月19日(火)、10月17日(火)、11月21日(火)、12月19日(火)、令和6年2月20日(火)、3月19日(火) 参加</li> <li>・センサリールーム勉強会(主催:SSSN) <ul style="list-style-type: none"> <li>令和6年1月18日(木)、1月22日(月) 参加</li> </ul> </li> <li>・部活動の地域移行勉強会(主催:SSSN) <ul style="list-style-type: none"> <li>令和6年2月2日(金) 参加</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>○井土町内会×井土まちづくり推進委員会×井土実行組合 <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年4月30日(日)「ふるさとを整える-若林区井土地区の歩み」展訪問</li> <li>・令和5年7月1日(土)訪問</li> <li>・令和5年8月11日(金)「井土マルシェ」訪問</li> </ul> </li> <li>○スパークシップ×一般社団法人 WITH <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年7月17日(月)「La mer」(共催イベント)訪問</li> <li>・令和5年9月2日(土)訪問</li> </ul> </li> <li>○仙台市市民協働事業提案制度 <ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度採択事業 7DAYS,Peace.(七北田公園活性化協議会)</li> <li>・令和5年10月21日(土)「NANA+ICHI(ななたすいち)カフェ」訪問</li> <li>・令和5年12月10日(日)「NANA+ICHI(ななたすいち)カフェ」訪問</li> </ul> </li> <li>○地域づくりパートナープロジェクト推進助成事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度採択事業 一般社団法人荒井タウンマネジメント×産電工業株式会社</li> <li>・令和6年1月12日(金)「アライデザインセンター」訪問</li> </ul> </li> <li>○地域づくりパートナープロジェクト推進助成事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度採択事業 一般社団法人ございん八木山</li> <li>・令和5年10月28日(土)訪問</li> <li>・令和6年1月23日(火)「終活教室」訪問</li> </ul> </li> <li>○ユースチャレンジ！コラボプロジェクト(若者版・市民協働事業提案制度) <ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度採択事業 ながまちマチキチユースチーム</li> <li>・令和5年12月23日(土) <ul style="list-style-type: none"> <li>「ナガマチトレジャーウォークⅢ～サンタクロースの大秘宝～」訪問</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>○その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年5月5日(金) <ul style="list-style-type: none"> <li>「ストピを探そう！まち歩きストリートピアノスタンプラリー」訪問</li> <li>(一般社団法人～東北を明るくする～仙台ストリートピアノ協会 <ul style="list-style-type: none"> <li>×仙台駅東まちづくり協議会)</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>・令和5年5月26日(金)「職親プロジェクト連絡会議」参加</li> <li>・令和5年10月1日(日)「バディーウォーク仙台2023」訪問</li> </ul> </li> </ul> <p style="text-align: right;">&gt;</p>
添付	<input type="checkbox"/> 広報物 <input type="checkbox"/> 配布資料 <input type="checkbox"/> アンケート結果 <input type="checkbox"/> その他(                    )

## 個別事業報告書

【事業3】人材育成事業	
事業目的	地域や社会の課題の解決に様々な形で関わる市民を増やし、その潜在能力を引き出すことで、価値観の変化や地域の存立に大きな影響を与える課題にもしなやかに対応できる人材を育成する。
成果目標	事業参加を通してその後の行動や活動に変化がもたらされた事例を5年間で100件以上生み出す。
実施目標	若者の人材育成に資する事業2事業以上
成果	<p><b>1.支える市民を増やす</b></p> <p><b>(1)いづいっちゃんねる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年2回(第15・16回)配信し、当日リアルタイム視聴件数は合計22件</li> <li>・令和5年度に配信した動画の再生回数のはのべ320回。(令和6年3月末時点)</li> <li>・視聴者へ配信を通して「行動してみたい」「参考になった」と考えた場合、高評価をお願いしたところ、年間合計9件の高評価があった。</li> <li>・YouTubeのチャットには、「ゆるーく、すろーに。というのはとても魅力的」「eスポーツに限らず、どんな人たちも、楽しく、誰かと関わったり、熱くなったりする機会が大事だし人生が豊かになりますね」などの声が寄せられ、視聴者に対し、課題への理解を深め、考えの変化をもたらしたことが分かった。</li> <li>・第15回配信では市民ライター1名が視聴レポートを執筆、第16回配信では、視聴者1名がぱれっとに記事を寄稿した。</li> <li>・第16回の配信後、X(エックス)を確認したところ、会場参加者が感想を投稿。同じ参加者からメールでも感想をいただいた。内容は、意見交換できたことの喜び、過去の配信に参加して考えが変化したこと、最終回となるいづいっちゃんねるへの感謝などで、事業参加を通して考え方が変化し、投稿につながった。</li> <li>・令和5年度は、配信終了後に、いづいっちゃんねる連動企画として、配信で扱った社会課題をテーマに話す「コーヒー・ハウス」(NPO 法人メディアージ主催)を開催。第15回配信後のオンラインでのコーヒー・ハウスに8人が参加。第16回配信後の市民活動シアターで開催されたコーヒー・ハウスには5人が参加し、活発な意見交換が行われた。</li> <li>・第16回配信後のコーヒー・ハウスでは、意見交換を通じて、会場参加者がゲストに取材依頼を申し込むなど新たなつながりが生まれた。</li> </ul> <p><b>2.活動力強化講座</b></p> <p><b>(1)協働ゼミ</b></p> <p>仙台市の協働促進の諸制度への参加応募を検討している団体等の人材に対し、協働に取り組むための基礎を学び、協働について考える機会を提供した。市民活動団体の他に、行政職員の受講もあり、行政側が協働の理解を深める内容を提供できた。受講者のうち1団体が、仙台市市民協働事業提案制度の事前相談に申込み、また別の受講者1団体が地域づくりパートナープロジェクト推進助成事業に申請し採択された。</p>

### 3. 事業参加者フォローアップ

令和5年度、聞き取りして、活動の動きが確認されたのは、56 団体 137 件、令和3年度、4年度と合わせると334件だった。その結果、「事業参加を通じた行動や活動の変化がもたらされた事例を5年間で100件以上生み出す」という成果目標を大きく上回った。以下、相談者の成果事例を3件掲載する。

#### 事例1

##### サポートセンター主催講座「動画制作講座」(令和4年度実施)受講団体

令和5年2月の動画制作講座を受講後、団体のYouTubeチャンネルを開設し、動画を2本公開。令和5年10月に、「動画の効果もあり、団体のブログのページビューも増加した」との報告があった。SNSでの発信や広報全般について継続支援中。

#### 事例2 活動相談から活動立ち上げ

女性の防災について活動立ち上げからサポートセンターが定期的に相談対応。活動の始め方を伝える「コトハジメ塾」(令和4年度10月実施)も受講し、やりたいことを活動に落とし込んだ。勉強会のテーマやゴール設定をサポートセンターと一緒にいき、令和5年9月より2回、情報交換会を開催した。

#### 事例3 伴走相談中の団体同士をコーディネート

個別に伴走相談で対応していた2団体の活動内容・活動対象に共通点があったことから、サポートセンターが仲介し、協働で高齢者対象の講座を実施することになった。

#### (1)会計フォローアップ講座

- ・令和4年度に実施した「NPO お金のアレコレシリーズ」全4回講座参加者28団体のうち、サポートセンターからの講座案内に了承を得ていた11団体に会計フォローアップ講座を案内し、講座参加後に団体の困りごとが解消しているかのヒアリングも併せて行った。うち4団体が会計フォローアップ講座を受講した。
- ・少人数制にしたことで、講師との質疑応答がしやすい場となり、参加者の会計の困りごとを引き出した。
- ・過去の講座参加者だけでなく、これまでの相談記録から、会計講座の情報を得たいと聞き取りができていた団体に会計フォローアップ講座を案内した。講座への参加・不参加に関わらず情報提供を通して、相談者をフォローアップできた。

##### ①「会計塾～NPO 会計 Q&A～」

市民活動団体の会計担当者6名が参加し、平均満足度が5点満点中4.7点。理解度は5点満点中3.4点だった。満足度が高かった背景には、講座の中で令和5年10月から始まったインボイス制度について取り上げたことがあげられる。アンケートには、「インボイスについて理解することができた」「自分でも勉強してみる」等の回答があった。その後、受講者への受講後の変化を聞き取りでも、「インボイスでの取るべき対応がわかった」との回答が2件あった。

## ②「会計塾～続 NPO 会計 Q&A～」

市民活動団体の会計担当者 3 名が参加し、平均満足度が 5 点満点中 4.3 点。理解度は 5 点満点中 4 点だった。参加者からは、日々の会計業務と照らすことで視野が広がった、講座で取り上げた活動計算書を今後は自団体でも活用したいとの感想があがり、会計業務の理解促進の機会につながった。

## (2)ちょぼロシアター

いづいっちゃんねる視聴後のフォローアップとして、実際の視聴者の感想や反応、参加者の考えや行動がどのように変化したのかを直接確認できた。

### ①よりみちの会

- ・参加者は、子ども食堂に興味がある市民 11 名。「子ども食堂をやってみたい」「子ども支援に関心がある」「食を通じた活動に関心がある」といった理由で参加していた。
- ・上映後に感想を話し合ったときには、近隣の子ども食堂の調べ方や活動頻度など具体的な参加方法についての質問が上がり、いづいっちゃんねる視聴を通して、活動への参加意欲が高まっていることが確認できた。
- ・アンケートでは、子ども食堂への理解が深まった、自分も取り組んでみたい、といった声が多く寄せられ、平均満足度は 5 点満点中 4.0 点だった。

〈いづいっちゃんねる視聴後の行動の変化〉

- ・参加者から、フードドライブについて調べたいという相談が 1 件あり、情報提供を行った。
- ・参加者のうち 1 名が「ちょっとボランティア」にも参加した。
- ・参加者の 1 名が、仲間たちと野菜づくりをはじめ、子ども食堂への寄付を考えているとのことだった。

### ②NPO 法人ワンダーアート

- ・社会教育士実習の受講者(仙台白百合女子大学・東北大学)13 名が参加した。
- ・上映後に感想を話し合う場で、課題を自分の体験に引き付けて、「教育や福祉の現場で何ができるか考えたい」という感想があがり、いづいっちゃんねる視聴を通して、社会課題解決への意欲が高まっていることが確認できた。
- ・アンケートでは、「障害について改めて考えられて良かった」「ボランティア体験が楽しみ」といった声が寄せられた。

〈いづいっちゃんねる視聴後の行動の変化〉

- ・後日、参加者のうち 1 名がワンダーアートの主催するイベントに参加したとの報告があった。

### ③認定 NPO 法人 Switch

- ・参加者は生きづらさを抱える若者の支援に関心のある市民 3 名。
- ・アンケートでは、「Switch の活動を深く知れて良かった」といった声が寄せられた。
- ・平均満足度は 5 点満点中 4.3 点だった。

〈いづいっちゃんねる視聴後の行動の変化〉

- ・参加者のうち 1 名が「ちょっとボランティア」にも参加した。

### (3) ちょっとボランティア

- ・参加者は事前にいづいちゃんねるを視聴していたことで、ボランティア体験当日に、ボランティア受入団体の人と積極的に意見交換することができた。
- ・参加者からの相談が3件あり、うち1件は支援を必要としている当事者で、団体につながることができた。

#### ①よりみちの会

- ・子ども食堂やボランティアに関心のある市民9名が参加し、平均満足度が5点満点中3.6点だった。
- ・アンケートでは、「色々な思いで子ども食堂に参加していることを知れてよかった」「楽しく交流出来た」などの感想が寄せられた。

〈「ちょっとボランティア」後の行動の変化〉

- ・参加者のうち1名から「また、よりみちの会の活動に参加したいので、日程と連絡先を教えてください」との相談があった。

#### ②NPO 法人ワンダーアート

- ・社会教育士実習の受講者(仙台白百合女子大学・東北大学)12名が参加した。
- ・アンケートでは、「アートの力を実感した」「自由に表現できるのが楽しかった」といった声が寄せられた。

〈「ちょっとボランティア」後の行動の変化〉

- ・ちょボラシアターとの連続参加者である1名がワンダーアートの主催するイベントに参加した。

#### ③認定 NPO 法人 Switch

- ・生きづらさを抱える若者の支援に関心のある市民5名が参加し、平均満足度が5点満点中4.3点だった。
- ・参加者は、教育や若者に関するボランティアをやりたいという相談を事前に受けていた人や生きづらさを感じている当事者とその家族などが多かった。
- ・アンケートでは、「活動内容が深く理解できた」「この活動が広がってほしい」といった意見が寄せられた。

〈「ちょっとボランティア」後の行動の変化〉

- ・参加者に支援を必要としている当事者がいたため、その人を団体につなげることができた。

## 4.若者の人材育成に資する事業への協力

### (1)仙台まちづくり若者ラボ 2023

6チームのうち2チームが伴走相談につながった。伴走相談によって、若者ラボ期間終了後も活動を続けるチームと関係を構築することが出来た。

2チームの活動をサポセンブログで掲載、1チームは機関誌ぱれっとで取材、3チームがアクションの成果物をサポセンに持ち込み(寄贈図書1、団体パンフレット2)、活動の情報発信に協力できた。

### (2)仙台若者 SDGs アワード

最終審査会とその前後で開催された交流会の実施のための会場提供、広報協力を行った。

	<p><b>(3)社会教育士実習受け入れ</b>  いづいっちゃんねるの視聴レポートを執筆しブログで公開するプログラムを取り入れ、情報発信を通したまちづくりに参画する機会を提供することができた。ボランティア体験にも参加してもらい、実際に市民活動に参加する機会を提供することができた。これをきっかけに実習参加者のうち1名が実習とは別に、ボランティア体験をした団体のイベントに参加した。</p>
課題	<p><b>1.支える市民を増やす</b>  <b>(1)いづいっちゃんねる</b>  ・いづいっちゃんねるが当初想定していた視聴者は、市民活動無関心層・何かしたいと思いをもち関心層などだったが、コーヒー・ハウスや「ちょボラシアター」などの他事業を通して、実際に視聴者と交流する場を設けたところ、視聴者は課題解決に向けて既に活動している層が多く、当初狙っていた層にあまり届いていないことが明らかになった。  ・アーカイブ視聴回数は令和4年度に比べて落ち込んでいるため、アーカイブを活用して課題に触れられる場づくりが必要。</p> <p><b>2.活動力強化講座</b>  <b>(1)協働ゼミ</b>  ・受講団体に対し、講義以外にも相談対応可能であることを伝えたが、相談を利用する団体が少なかった。</p> <p><b>3.事業参加者フォローアップ</b>  <b>(1)会計フォローアップ講座</b>  会計は団体により習得が必要なレベルにばらつきがあるため、講義形式でのフォローアップには限界があった。</p> <p><b>(2)ちょボラシアター、(3)ちょっとボランティア</b>  当初の事業計画ではちょボラシアターでいづいっちゃんねるを視聴した後にちょっとボランティアで、行動の変化を生み出すことを想定していたが、ちょボラシアターに参加したい人、ちょっとボランティアに参加したい人の層が異なり、連続の参加に結びつかなかった。</p> <p><b>4.若者の人材育成に資する事業への協力</b>  サポートセンター以外の機関の事業への協力のため、それぞれの機関の意向と、サポートセンターの意向のすり合わせが十分できた事業と、そうでない事業とで協力の度合いに温度差があった。</p>

実施概要

1.支える市民を増やす

(1)いづいっちゃんねる

市民活動無関心層・何かしたいと思いをもち関心層などを対象に、市民が地域の課題について深く知る動画コンテンツを地域に根差したメディア TOHOKU 360と、サポートセンターの協働により作成・配信した。

テーマ		視聴 件数	再生 回数	高評価
配信日時	ゲスト			
ゆる〜いコミュニティづくりの現場から				
令和5年 5月19日(金) 19:00~19:30	NPO 法人スロコミ 林久美さん、 小島英弥夫さん	11	200	4
e スポーツで課題解決する現場から				
令和6年 2月16日(金) 19:00~19:30	一般社団法人 仙台 e スポーツ協会 代表理事 高谷将宏さん	配信 11 会場 7	120	5
計		29	320	9

※再生回数は令和6年3月末時点

(2)視聴者とテーマについて深める場の提供

コーヒー・ハウスとコラボし、視聴者同士が気づきや感想を話す場をつくる

日時	ファシリテーター	会場	参加者
令和5年 5月19日(金) 19:40~21:00	NPO 法人メディアージ常務理事 漆田義孝さん	オンライン	8
令和6年 2月16日(金) 19:40~21:00	NPO 法人メディアージ常務理事 漆田義孝さん	市民活動 シアター	5
合計			13

2.活動力強化講座

(1)協働ゼミ

他の組織と一緒に課題解決に取り組むための基本とノウハウを学び、協働で取り組む事業を考え、「市民協働事業提案制度」や「地域づくりパートナープロジェクト推進助成事業」等への応募を目指す4回連続講座を2クール実施した。

【1クール目】協働ゼミ③協働の実態を知ろう

日時	令和5年4月20日(木) 14:00~15:30
会場	仙台市市民活動サポートセンター 5階 研修室5
講師	サポートセンタースタッフ
ゲスト	一般社団法人ございん八木山 井上則雄さん
対象	協働で課題を解決したいと考えている NPO 法人等
参加者	6 団体 9 名(定員 5 団体)
内容	協働の実践者の話から協働についての理解を深めるゲストトーク

## 【1クール目】協働ゼミ④協働事業を考えてみよう

日時	令和5年6月22日(木) 14:00~15:30
会場	仙台市市民活動サポートセンター 5階 研修室5
講師	サポートセンタースタッフ
対象	協働で課題を解決したいと考えている NPO 法人等
参加者	6 団体 7 名(定員 5 団体)
内容	これまでの協働ゼミを振り返りながら、ロジックモデルなどを使用して協働事業を考えるワーク

## 【2クール目】協働ゼミ①仙台市の取り組みを知ろう

日時	令和5年8月24日(木) 14:00~15:30
会場	仙台市市民活動サポートセンター 6階 セミナーホール
講師	サポートセンタースタッフ
対象	協働で課題を解決したいと考えている NPO 法人等
参加者	3 団体 4 名(定員 5 団体)
内容	仙台市の協働に関する各制度の説明と、「仙台市基本計画 2021-2030」と自団体との共通点を考える個人ワーク

## 【2クール目】協働ゼミ②協働事業を考えてみよう

日時	令和5年10月26日(木) 14:00~15:30
会場	仙台市市民活動サポートセンター 6階 セミナーホール
講師	サポートセンタースタッフ
対象	協働で課題を解決したいと考えている NPO 法人等
参加者	2 団体 2 名(定員 5 団体)
内容	ロジックモデルなどを使用して協働事業を考える個人ワーク

## 【2クール目】協働ゼミ③協働のパートナーを探そう

日時	令和5年12月7日(木) 14:00~15:30
会場	仙台市市民活動サポートセンター 6階 セミナーホール
講師	サポートセンタースタッフ
対象	協働で課題を解決したいと考えている NPO 法人等
参加者	1 団体 1 名(定員 5 団体)
内容	協働のメリットやカタチ、パートナーについての座学と、想定する事業内容から協働相手を洗い出す個人ワーク。

## 【2クール目】協働ゼミ④協働の実態を知ろう

日時	令和6年2月22日(木) 14:00~15:30
会場	仙台市市民活動サポートセンター 6階 セミナーホール
講師	サポートセンタースタッフ
ゲスト	Studio Soda Sendai 恐山・R・クロフォードさん
対象	協働で課題を解決したいと考えている NPO 法人等
参加者	3 団体 3 名、行政職員 5 名 合計 8 名 (定員 15 名)
内容	協働の実践者の話から協働についての理解を深めるゲストトーク

### 3.事業参加者フォローアップ

#### (1)会計フォローアップ講座

令和4年度の会計講座参加者や会計の困りごとがある活動相談者を対象に会計フォローアップ講座として「会計塾」を2回実施した。

##### ①「会計塾～NPO 会計 Q&A～」

日時	令和5年7月22日(土) 講座 13:00～14:30 個別相談 15:00～16:00
会場	仙台市市民活動サポートセンター 4階 研修室5
講師	伊藤由紀公認会計士・税理士事務所 伊藤由紀さん
対象	NPO 法人をはじめとした非営利組織の会計担当者
参加者	6名(定員10名)
内容	令和4年度、「NPO 法人会計基準と一般会計処理の違い」をテーマに、NPO 法人の会計基準と活動計算書の作り方や、勘定科目の立て方と注記の作成方法を学ぶ講座を実施。そのフォローアップ塾を実施。令和5年10月からはじまったインボイス制度についても取り上げた。個別相談に2件対応した。

##### ②「会計塾～続 NPO 会計 Q&A～」

日時	令和6年2月10日(土) 講座 13:00～14:30 個別相談 15:00～16:00
会場	仙台市市民活動サポートセンター 4階 研修室5
講師	伊藤由紀公認会計士・税理士事務所 伊藤由紀さん
対象	NPO 法人をはじめとした非営利組織の会計担当者
参加者	3名(定員10名)
内容	令和4年度、会計報告書のチェックの仕方、財務諸表の読み方などを学ぶ講座を実施した。そのフォローアップ塾を実施し、それぞれの団体の会計報告書作成時の困りごとを参加者で共有。個別相談に2件対応した。

#### (2)ちょボラシアター

「いづいっちゃんねる」のフォローアップとして、視聴者の感想や反応、視聴後の行動の変化を確認するために、過去の「いづいっちゃんねる」配信を視聴した後、内容について感想を話し合った。

##### ①よりみちの会

日時	令和5年6月11日(日)10:00～11:30
会場	仙台市市民活動サポートセンター1階マチノワひろば
視聴回	第2回配信「子ども食堂ってなんだろう？」
対象	市民活動・ボランティアに興味のある人、社会のために何か始めたい人
参加者	11人(定員15名)
内容	子ども食堂についての動画を見たり、感想を話し合ったりした。

## ②NPO 法人ワンダーアート

日時	令和5年9月4日(月) 17:30~19:00
会場	仙台市市民活動サポートセンター 6階セミナーホール
視聴回	第12回配信『普通』って何だろう？アートの現場から
対象	仙台白百合女子大学と東北大学の社会教育士実習生
参加者	13人(定員なし)
内容	生きづらさや困難を抱える人の心を、アートの力でサポートする現場についての動画を見たり、感想を話し合ったりした。

## ③認定 NPO 法人 Switch

日時	令和5年10月20日(金)17:00~18:30
会場	仙台市市民活動サポートセンター1階マチノワひろば
視聴回	第5回配信「生きづらさを抱える人の『働く』を考える」
対象	市民活動・ボランティアに興味のある方、社会のために何か始めたい方
参加者	3人(定員10名)
内容	生きづらさを抱える若者への就労支援について、動画を見たり、感想を話し合ったりした。

## (3)ちょっとボランティア

いづいっちゃんねるのフォローアップとして、いづいっちゃんねる視聴者の行動の変化を促すために、いづいっちゃんねるのゲスト団体でのボランティア体験の機会を提供した。

## ①よりみちの会

日時	令和5年6月25日(日)9:30~11:30
会場	福沢市民センター
受入団体	よりみちの会
対象	市民活動・ボランティアに興味のある方、社会のために何か始めたい方
参加者	9人(定員15名)
内容	子ども食堂の準備をしたり、子どもたちと一緒に工作遊びをしたりするボランティア体験。

## ②NPO 法人ワンダーアート

日時	令和5年9月15日(金) 10:00~12:00
会場	ワンダーアートスタジオ
受入団体	NPO 法人ワンダーアート
対象	仙台白百合女子大学と東北大学の社会教育士実習生
参加者	12人(定員なし)
内容	入院している子どもたちへ贈るクリスマスカードの作成や封入作業などのボランティア体験。

### ③認定 NPO 法人 Switch

日時	令和 5 年 11 月 17 日(金) 16:30~18:30
会場	Switch 事務所
受入団体	認定 NPO 法人 Switch
対象	市民活動・ボランティアに興味のある方、社会のために何か始めたい方
参加者	5 人(定員 5 名)
内容	訪問支援するための寄付集めを目的とした、古本の寄付を募る寄付本箱づくりや寄付された本の整理などのボランティア体験。

## 4. 若者の人材育成に資する事業への協力

### (1)仙台まちづくり若者ラボ

仙台市による、若者自らが「自分ごと」として関われる、まちづくりに関するテーマを設定してワークショップとフィールドワークによる実践的なプログラム。サポートセンターはワークショップ会場およびグループ活動の会場提供を行った。令和5年度から各チームのメンターのミーティングにサポートセンタースタッフも参加。アクションを進めていく上で参考となる情報を提供した。また、各チームのアクションを取材し、情報発信に協力した。ほか各チームからの相談にも随時対応した。

日程	内容
令和5年 7月26日(水)	メンターとのオンラインミーティングに参加、情報提供
8月4日(金)	第 2 回ワークショップ会場提供
9月7日(水)	メンターとのオンラインミーティングに参加、情報提供
9月 15 日(金)	中間報告会での各チームの発表にフィードバック
11月 1 日(水)	メンターとのミーティングに参加、情報提供
11月 26 日(土)	防災チーム、朝ごはんチームのアクションを取材
	アクション報告会会場提供
12月 1 日(金)	各チームメンバーに相談対応
令和 6 年 1月 12 日(金)	最終ワークショップ会場提供 各チームメンバーに相談対応
3月 9 日(土)	防災チームの防災フォーラムでの出展を取材

### (2)仙台若者 SDGs アワード

仙台若者 SDGs アワード実行委員会は、若者や市民が活動を知るきっかけとなり、より若者が活躍できる仙台をつくり、持続可能な社会の実現を推進するための取り組みを主催している。サポセンは、会場提供およびセミナーの実施協力を行った。

**(3)社会教育士実習受け入れ**

仙台白百合女子大学、東北大学より申し出を受け、学びを通じて、人づくり・つながりづくり・地域づくりに中核的な役割をはたす専門人材である社会教育士の取得を目指す大学生を、実習先として受け入れ、サポートセンターにて、以下のプログラムを行った。

日程	参加者	内容
令和5年 9月4日(月)	仙台白百合女子大学(6人) 東北大学(7人)	・サポセン施設説明 ・「コトハジメ塾」&館内ガイド ・「いづいっちゃんねる」視聴 ・視聴内容のディスカッション
9月8日(金)	仙台白百合女子大学(6人) 東北大学(7人)	・「いづいっちゃんねる」視聴レポート執筆(白百合のみ) ・「いづいっちゃんねる」視聴 ・「地域メディア談話室」体験
9月15日(金)	仙台白百合女子大学(5人) 東北大学(7人)	・ちょっと。ボランティア参加 (受入先:NPO法人ワンダーアート)
9月17日(日)	仙台白百合女子大学(6人)	・「いづいっちゃんねる」視聴レポート修正 ・実習全体を振り返るワークショップ

添付

■広報物 ■配布資料 ■アンケート結果 その他( )



## 個別事業報告書

【事業 4】協働に関する理解促進及び機会創出事業	
事業目的	<p>1.多様なまちづくりの主体が協働への理解を深める機会をつくる。</p> <p>2.市民活動団体が協働の担い手になるために必要な理解を得る機会をつくる。</p> <p>3.地域や社会の課題の解決に関心のある人たちが集い、交流できる場をつくる。</p> <p>4.市民目線で発掘された社会課題に対し、多様な主体が関わり課題解決のために力を発揮する環境をつくる。</p>
成果目標	協働についての理解促進が市民レベルで着実に広まり、地域や社会の様々な課題の解決に多様な主体が様々な形で関わり、しなやかに対応していく環境をつくる。
実施目標	協働の理解促進や創出に資する事業を、毎年度2事業以上実施する 事業者と他の主体の意見交換する事業を毎年度実施
成果	<p><b>1.多様なまちづくりの主体を対象とした、協働に関する理解を深めるための事業</b></p> <p><b>(1)協働の現場トーク！</b></p> <p>令和5年度の協働の現場トークは、協働ゼミのカリキュラムに組み込んでオンライン・有観客で2回実施した。4月の回をもとに、協働事例を紹介する動画を1本作成し、サポートセンターのYouTubeチャンネルで公開。令和6年3月末現在、119回再生された。2月の回には、協働に関わる行政職員が多く参加したことで、行政・市民活動団体の垣根を越えて活発な意見交換がなされた。</p> <p><b>2.多様なまちづくりの主体が活動分野を超えて連携・交流し、協働の機会を創出するための事業</b></p> <p><b>(1)せんだい・みやぎソーシャルハブ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度の情報交換会(セッション)は、せんだい・みやぎソーシャルハブに関わる人のすそ野拡大を目的に、刑務所や少年院を出所した後の支援現場の話、ヤングケアラー当事者や支援者の話など、「ちょっと覗いてみたくなる」ようなテーマを設定し開催した。その結果、新規参加者が94名と、令和4年度の45名に対して2倍以上に増加した。</li> <li>・自分とは縁遠いようで実は身近な社会の課題に触れる機会を提供できた。</li> <li>・セッションのテーマを設定することにより、広報期間の確保、テーマと親和性の高い企業や行政関係者にも広報することができ、実際の参加にも繋がった。</li> <li>・町内会運営がテーマのセッションをきっかけに、有志の勉強会が立ち上がった。</li> <li>・日頃、定例の情報交換会や、情報交換会(セッション)「私たちの知らない世界」に参加している市民活動団体が、自団体で取り組む課題(テーマ)を持ち込み、共催企画が実現した。</li> <li>・情報交換会に参加した人たちが登録できるメーリングリストを立ち上げ、互いの情報交換の機会を増やした。</li> </ul> <p><b>(2)市民活動団体ヒアリング</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サポートセンターのロッカー、レターケースの利用団体のうち、連携や交流を求める団体に必要な支援についてヒアリングしたところ、必ずしも連携・交流が必要ではないと分かり、個別の活動相談につながった。</li> </ul>

<p><b>課題</b></p>	<p><b>1.多様なまちづくりの主体を対象とした、協働に関する理解を深めるための事業</b>  <b>(1)協働の現場トーク！</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月の協働の現場トークで紹介した協働の実践例は、成功例であったとともに、団体の力量も高く、参加者に「自団体ではできない」と思わせてしまった。</li> <li>・開催後の感想の中には、「成功例より失敗例が知りたい」という意見もあった。</li> <li>・2月は行政の参加者が多く、市民活動団体の参加が少なかった。市民レベルで協働への理解促進を広めるには、もっと市民活動団体への周知が必要だった。</li> </ul> <p><b>2.多様なまちづくりの主体が活動分野を超えて連携・交流し、協働の機会を創出するための事業</b>  <b>(1)せんだい・みやぎソーシャルハブ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報交換会(セッション)「私たちの知らない世界」によって、新たな主体との出会いを得られた一方で、参加者同士で課題を持ち寄り解決に向けた意見交換をする機会は少なかった。</li> <li>・せんだい・みやぎソーシャルハブの役割や機能、活用方法の周知、発信が不足している。</li> </ul>																				
<p><b>実施概要</b></p>	<p><b>1.多様なまちづくりの主体を対象とした、協働に関する理解を深めるための事業</b>  <b>(1)協働の現場トーク！</b></p> <p>地域団体と大学・NPO 法人の協働や、地下道の利活用を推進する行政とサブカルチャーの発表の場を求める任意団体の協働、といった、異なるセクターの協働について知ることのできる機会をつくった。</p> <table border="1" data-bbox="399 1160 1385 1592"> <tr> <td>収録日</td> <td>令和5年4月20日(木)14:00~15:30</td> </tr> <tr> <td>会場</td> <td>仙台市市民活動サポートセンター 研修室5</td> </tr> <tr> <td>ゲスト</td> <td>一般社団法人ございん八木山 代表理事 井上則雄さん</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td>6団体9名</td> </tr> <tr> <td>内容</td> <td>ございん八木山は、太白区八木山を拠点に居場所づくりに取り組む団体。令和5年度地域づくりパートナープロジェクト推進助成の採択事業として、地域づくりのノウハウを学びたいNPOや学生の活躍の場をつくりたい大学と協働して、地域活性化事業を実施。活動分野や地域が異なる団体と協働した体験談を話してもらったトークセッションを開催した。撮影した動画を編集後、YouTubeチャンネルにて公開。</td> </tr> </table> <table border="1" data-bbox="399 1637 1385 2020"> <tr> <td>日時</td> <td>令和6年2月22日(木)14:00~15:30</td> </tr> <tr> <td>会場</td> <td>仙台市市民活動サポートセンター セミナーホール</td> </tr> <tr> <td>ゲスト</td> <td>Studio Soda Sendai 恐山・R・クロフォードさん</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td>3団体8名(行政職員5名)</td> </tr> <tr> <td>内容</td> <td>青葉通地下道でのマーケットイベント「地下道-3150」は、令和4・5年度ユースチャレンジコラボプロジェクト採択事業であり、サブカルチャーの発表の場をつくりたいStudio Soda Sendaiと、地下道の利活用を図る行政が協働している。この取り組みを話題に、協働について深掘りするトークセッションを開催した。</td> </tr> </table>	収録日	令和5年4月20日(木)14:00~15:30	会場	仙台市市民活動サポートセンター 研修室5	ゲスト	一般社団法人ございん八木山 代表理事 井上則雄さん	参加者	6団体9名	内容	ございん八木山は、太白区八木山を拠点に居場所づくりに取り組む団体。令和5年度地域づくりパートナープロジェクト推進助成の採択事業として、地域づくりのノウハウを学びたいNPOや学生の活躍の場をつくりたい大学と協働して、地域活性化事業を実施。活動分野や地域が異なる団体と協働した体験談を話してもらったトークセッションを開催した。撮影した動画を編集後、YouTubeチャンネルにて公開。	日時	令和6年2月22日(木)14:00~15:30	会場	仙台市市民活動サポートセンター セミナーホール	ゲスト	Studio Soda Sendai 恐山・R・クロフォードさん	参加者	3団体8名(行政職員5名)	内容	青葉通地下道でのマーケットイベント「地下道-3150」は、令和4・5年度ユースチャレンジコラボプロジェクト採択事業であり、サブカルチャーの発表の場をつくりたいStudio Soda Sendaiと、地下道の利活用を図る行政が協働している。この取り組みを話題に、協働について深掘りするトークセッションを開催した。
収録日	令和5年4月20日(木)14:00~15:30																				
会場	仙台市市民活動サポートセンター 研修室5																				
ゲスト	一般社団法人ございん八木山 代表理事 井上則雄さん																				
参加者	6団体9名																				
内容	ございん八木山は、太白区八木山を拠点に居場所づくりに取り組む団体。令和5年度地域づくりパートナープロジェクト推進助成の採択事業として、地域づくりのノウハウを学びたいNPOや学生の活躍の場をつくりたい大学と協働して、地域活性化事業を実施。活動分野や地域が異なる団体と協働した体験談を話してもらったトークセッションを開催した。撮影した動画を編集後、YouTubeチャンネルにて公開。																				
日時	令和6年2月22日(木)14:00~15:30																				
会場	仙台市市民活動サポートセンター セミナーホール																				
ゲスト	Studio Soda Sendai 恐山・R・クロフォードさん																				
参加者	3団体8名(行政職員5名)																				
内容	青葉通地下道でのマーケットイベント「地下道-3150」は、令和4・5年度ユースチャレンジコラボプロジェクト採択事業であり、サブカルチャーの発表の場をつくりたいStudio Soda Sendaiと、地下道の利活用を図る行政が協働している。この取り組みを話題に、協働について深掘りするトークセッションを開催した。																				

## (2)市民活動団体のヒアリング:2件

・令和5年11月13日(月)、令和5年11月16日(木) いずれも任意団体

## 2.多様なまちづくりの主体が活動分野を超えて連携・交流し、協働の機会を創出するための事業

## (1)せんだい・みやぎソーシャルハブ

## 【実施内容(共通)】

対象:社会課題の解決に関心のある多様な主体、個人

内容:市民目線で発掘された社会課題に対し、設定したテーマをもとに多様な主体が参加する情報共有。または社会課題の共有や他地域の先進事例の共有などを自由に行う情報交換を行った。多様な主体が、課題解決のためにそれぞれの資源を持ち寄り、それぞれの役割を認識して力を発揮するプロジェクトにつなげる内容とした。

実施日時(共通):毎月第3木曜日 19:00~20:30

会場(共通):仙台市市民活動サポートセンター セミナーホールと  
オンライン(Zoom)のハイブリッド方式で開催

実施日時	令和5年4月20日(木)
タイトル	刑務所や少年院を出所、出院した方々の自立をサポートする話
ゲスト	職親プロジェクト宮城支部長 笹川慎太郎さん 多賀城市役所 柴田光起さん
参加者	46名(会場21名、オンライン25名、うち初参加23名)
内容	刑務所や少年院を出所、出院した人の就職支援をテーマに再犯のない社会の実現を目指すためにはどうしたらいいかを、それぞれの立場で語り合った。

実施日時	令和5年5月18日(木)
タイトル	あなたはヤングケアラーという存在を知っていますか?
ゲスト	一般社団法人ヤングケアラー協会 小林鮎奈さん NPO法人アスイク コーディネーター 森川ゆとりさん
参加者	32名(会場13名、オンライン19名、うち初参加20名)
内容	ヤングケアラーの支援を行っているゲストの話題提供を受けて、それぞれの立場で何ができるのかを語り合った。

実施日時	令和5年6月15日(木)
タイトル	教育を十分に受けられなかった人たちのこと
ゲスト	仙台自主夜間中学 園田淳子さん 個別教室のアップル代表 畠山明さん
参加者	19名(会場8名、オンライン11名、うち初参加5名)
内容	教育機会を十分に受けられなかった人たちのことについてゲストより話題提供を受け、参加者がそれぞれの立場で何ができるのかを語り合った。

※7月 開催なし

実施日時	令和5年8月17日(木)
タイトル	『市民活動』と『副業』の可能性
ゲスト	三瓶悦孝さん(せんだい・みやぎソーシャルハブのプロボノ) 一般社団法人グラミン日本仙台支部代表 羽山暁子さん
参加者	26名(会場15名、オンライン11名、うち初参加13名)
内容	プロボノ実践者による体験談とプロボノ募集(受入れ)側の話を 通して、プロボノとして関わる人材の発掘とプロボノ推進の仕組 みづくりを検討する場とした。

実施日時	令和5年9月21日(木)
タイトル	いつかはあなたも町内会役員!?
ゲスト	柳谷理紗さん(仙台市片平地区住民・町内会役員経験者) 田村晋さん(仙台市大手町地区・町内会役員経験者)
参加者	24名(会場13名、オンライン11名、うち初参加11名)
内容	町内会役員経験のある30代~40代のゲストを招き、町内会の 面白さや難しさなどを聞き、仕事以外で地域や社会と関わる選択 肢の一つである町内会について知る場とした。

※10月 開催なし

実施日時	令和5年11月16日(木)
タイトル	健常と障害の間
ゲスト	土佐昭一郎さん(NPO法人ミヤギユースセンター理事長)
参加者	21名(会場13名、オンライン8名、うち初参加3名)
内容	健常と障害の間はなんなんだろう?健常と障害にそもそも違い はあるのだろうか?誰が誰に対しどう感じるのかなのだろうか?健 常と障害という一見区別されたような言葉のその曖昧な部分を 考え、参加者同士で話し合った。

実施日時	令和5年12月21日(木)
タイトル	テーマなしの情報交換会
ゲスト	なし
参加者	19名(会場12名、オンライン7名、うち初参加4名)
内容	テーマなしの参加者同士の情報交換。社会課題の共有や他地域 の先進事例の共有。

実施日時	令和5年12月26日(火)
タイトル	顔出しなし・匿名で日本の教育について話してみませんか??
ゲスト	なし
参加者	7名(すべてオンライン参加)
内容	教育現場の理想や今の教育に対する参加者同士の意見交換(グ ループ討論)
共催	認定NPO法人底上げ

	実施日時	令和 6 年 1 月 18 日(木)						
	タイトル	テーマなしの情報交換会						
	ゲスト	なし						
	参加者	24 名 (会場 15 名、オンライン 9 名、うち初参加8名)						
	内容	テーマなしの参加者同士の情報交換。能登半島地震の支援状況の話題提供も行った。						
	実施日時	令和 6 年 2 月 15 日(木)						
	タイトル	能登半島地震に学ぶ 私たちのまちは何をしておく？						
	ゲスト	仙台市都市整備局建築宅地部建築指導課 建築防災係 係長 佐藤 匡さん 一般社団法人復興応援団 代表 佐野 哲史さん						
	参加者	18 名 (会場 11 名、オンライン 7 名、うち初参加 5 名)						
	内容	長町-利府断層の地震による被害想定について自分たちの暮らすまちがどのような状況に陥るのかを学んだび今からできることを知った。また、能登半島地震の支援活動現場から、復旧・救援活動の弊害となっている課題や、長い時間を要する復興に向け、向き合っていく課題など、4 つのテーマについて共有した。						
	実施日時	令和 6 年 3 月 21 日(木)						
	タイトル	続・能登半島地震に学ぶ 私たちのまちは何をしておく？						
	ゲスト	なし						
	参加者	14 名 (会場 11 名、オンライン 3 名、うち初参加 2 名)						
	内容	2 月 15 日に開催した情報交換会の続編。前回投げかけられた 4 つのテーマを踏まえ、100 万都市・仙台で備えておくべきこと(都市機能)を考えた。						
参加者内訳								
	回	市民	企業	大学	NPO	行政	議員	計
	4/20	11	9	2	18	6	0	46
	5/18	12	5	1	11	3	0	32
	6/15	3	2	4	8	2	0	19
	8/17	9	4	1	6	6	0	26
	9/21	8	1	1	12	2	0	24
	11/16	6	3	2	8	2	0	21
	12/21	1	4	0	11	3	0	19
	12/26	7	0	0	0	0	0	7
	1/18	3	4	0	15	2	0	24
	2/15	3	3	1	7	3	1	18
	3/21	3	1	0	10	0	0	14
	のべ人数合計							250
	属性別合計	66	36	12	106	29	1	
添付	<input checked="" type="checkbox"/> 広報物 <input type="checkbox"/> 配布資料 <input type="checkbox"/> アンケート結果 <input type="checkbox"/> その他( )							



## 個別事業報告書

【事業 5】調査研究事業	
事業目的	仙台の市民社会のあり方とあり方を支える仕組み(施策)を検討・試行し、協働によるまちづくり・地域づくりを推進する。
成果目標	仙台の市民社会のあり方とあり方を支える仕組み(施策)を検討・試行し、協働によるまちづくり・地域づくりを推進する。
実施目標	プラットフォーム運用体制の維持。 企業ヒアリングを通して、事業者へのアプローチ方法を検討する。
成果	<p><b>社会課題解決のプラットフォームの運用のための協働体制の確立</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会課題解決のプラットフォーム(せんだい・みやぎソーシャルハブ)の運用により、ソーシャルハブ事業で関わる企業や、プロボノとして地域に関わりたいと考える個人などとサポートセンターとの関わりが増えた。</li> <li>・同年に事務局が獲得した公益財団法人日本財団からの助成金で 2023 年 12 月にせんだい・みやぎソーシャルハブ専任スタッフを 2 名雇用し、事務局機能の安定に向けた改善が図られた。</li> <li>・上記助成金を活用し、課題解決に伴走するコーディネーターの育成にも着手。専門団体と連携し研修の場を持つなど進展した。</li> </ul> <p><b>企業ヒアリング</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和 5 年 12 月から令和 6 年 3 月にかけて、サポートセンターとしては 7 社、せんだい・みやぎソーシャルハブのメンバーのみで訪問した 6 社を合わせ合計 13 社に訪問ヒアリングを実施し、つながりをつくることができた。</li> <li>・他、食品関連の事業者が SDGs の取り組みを発表するイベントに参加。4 社にヒアリングし、うち、1 社は情報交換会(事業 4)参加につながった。</li> <li>・これらを通じて、今後の事業者へのアプローチ方法を検討するための材料と、顔の見えるつながりをつくることができた。</li> </ul> <p><b>ソーシャルラボ機能の実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーシャルラボ機能の実践では、「居住支援」と新たに「地域自治・町内会」というテーマが情報交換会(事業 4)をきっかけに始まった。</li> <li>・専門領域の団体と市民、企業の掛け算による、居住支援の推進に向けたロードマップを市民有志も参加し制作することができた。ロードマップは、サポートセンター館内やネット上で公開。不動産を営む事業者から、社内で課題共有するためにロードマップを活用したいと申し出があった。</li> </ul> <p><b>調査報告会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査報告会では、公益社団法人日本フィランソロピー協会のオリジナルマッチングサイト「ボランティアウェブ」を紹介し、仙台の市民活動団体が抱える、人材募集における課題の解決に役立つ情報を提供できた。実施後、2 団体がマッチングサイトに申請、1 団体が問い合わせ、1 団体が募集情報掲載の準備を進めている。</li> </ul>

<p><b>課題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・せんだい・みやぎソーシャルハブが、実績や何ができるところかがわかりづらく、企業をはじめ、外部の人たちから見て、つながることが有益であると思えるような存在にまだなっていない。</li> <li>・調査報告会では、市民活動団体のニーズに応え、公益社団法人日本フィランソロピー協会のオリジナルマッチングサイト「ボランティアウェブ」を紹介したが、周知発信はそのときだけとなってしまった。</li> </ul>
<p><b>実施概要</b></p>	<p><b>1. 多様な主体の参加による協働体制の構築</b></p> <p><b>(1)社会課題解決のプラットフォームの運用のための協働体制の確立</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会課題解決のプラットフォーム運用のため、NPO 法人せんだい・みやぎ NPO センター、NPO 法人都市デザインワークス、一般社団法人パーソナルサポートセンターの3者で共同運営した。</li> <li>・プラットフォームの運用において、キーパーソンをつなぐ役割のコーディネーターを3名育成した。</li> </ul> <p style="padding-left: 40px;">令和6年2月28日(水)</p> <p style="text-align: right; padding-right: 40px;">東北チャレンジコミュニティ連携オンラインセミナー基礎編</p> <p style="padding-left: 40px;">令和6年3月5日(火) 東北チャレンジコミュニティ連携オンラインセミナー実践編</p> <p><b>(2)必要な機能の洗い出しと共有</b></p> <p>①調査研究事業ミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年8月2日(水) 議題・役割分担の再確認、視察先の検討など</li> </ul> <p>②情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・せんだい・みやぎソーシャルハブ FaceBook グループページおよび、note で情報発信を行った。FaceBook グループページの令和6年3月末時点での参加メンバーは、586名(前年度比106%)。グループ内で情報交換も行われている。note では、調査研究事業の進捗などを年間30件発信した。</li> </ul> <p><b>(3)企業ヒアリング:11件</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年11月24日(金)SENDAI SDGs Expo2023 訪問(4件)</li> <li>・令和5年12月～令和6年1月 有限会社シエルージュ(メール・電話にて)</li> <li>・令和6年1月12日(月)産電工業株式会社</li> <li>・令和6年1月29日(月)株式会社藤崎</li> <li>・令和6年1月29日(月)株式会社ジェーシーアイカスタム&amp;モビリティ</li> <li>・令和6年1月31日(水)enspace 株式会社</li> <li>・令和6年2月9日(金)株式会社ユーメディア</li> <li>・令和6年3月29日(金)株式会社河北新報社</li> </ul>

## 2. ソーシャルラボ機能の実施

### (1) 居住支援

#### ・ロードマップの公開

実施日	令和5年4月1日(土)～4月30日(日)
会場	仙台市市民活動サポートセンター 1階マチノワひろば
内容	専門領域の団体と市民、企業の掛け算による、居住支援の推進に向けたロードマップを公開し、市民の意見を求めた。

#### ・事例勉強会

実施日	令和5年7月10日(月)19:00-20:30
講師	千年建設株式会社 代表取締役社長 岡本拓也氏
参加者	8名(講師、行政職員、市民活動団体など)
内容	ロードマップのバージョンアップに向けて、母子向け居住支援の取り組みについて事例を学んだ。

#### ・ラボメンバーでの情報交換・勉強会

実施日	令和5年10月19日(木)19:00-21:00
参加者	5名(市民活動団体、まちづくりNPOなど)
内容	昨今の居住支援の全国的な動きや、それぞれの現場での支援ケースを共有した。また、居住支援団体と他分野の団体とのネットワーキングの方法、地域住民の参加の可能性、中間支援の在り方などを議論した。

#### ・令和5年6月24日(土)

一般社団法人全国居住支援法人協議会総会記念シンポジウム参加

## (2)地域自治・町内会

令和5年9月の情報交換会(事業4)にて、「私たちの知らない町内会の世界」と題し、現役世代・役員経験者をゲストに招いて開催した。世代交代や新たな自治の在り方を問われる今、既存の地域自治や町内会について改めて学んだり、現役世代や若者の目線から「こんな町内会・地域自治があってもいいのでは」というイメージを膨らませたりする有志勉強会を開催した。

### 第1回

実施日	令和6年2月4日(日)13:00-15:00
会場	多賀城市市民活動サポートセンター
参加者	2名
内容	多賀城市市民サポートセンター事業「未来自治トーク」に参加し、事例を通じて学んだ。事例は、仙台市鶴ヶ谷「まるっとつるがや」と、多賀城市城南・黒石崎の事例。

### 第2回

実施日	令和6年2月13日(火)18:00-20:00
会場	仙台市市民活動サポートセンター研修室1
参加者	4名(NPO、行政職員、市民など)
内容	2月4日の参加報告と、最近話題の町内会事例のシェア&ディスカッションを行った。 仙台市発行「多様な運営スタイルに係る情報交換会」、事例集「その手があったか!」、ソーシャルハブ「私たちの知らない町内会の世界」資料と、泉区台原の町内会役員からの情報提供。現状の課題と解決に向けたアイデア交換を行った。

## (3)ソーシャルハブ事務局による定例ミーティングの実施

年間42回実施(1時間程度/1回)。オンラインと会場にて。

令和5年4月7日(金)、4月14日(金)、4月21日(金)、4月28日(金)、  
5月12日(金)、5月19日(金)、5月20日(土)プロボノとの合同ミーティング、  
5月26日(金)、6月2日(金)、6月16日(金)、6月23日(金)、6月30日(金)、  
7月7日(金)、7月14日(金)、7月21日(金)、7月28日(金)、8月4日(金)、  
8月10日(木)、8月18日(金)、8月25日(金)、9月1日(金)、9月8日(金)、  
9月15日(金)、9月22日(金)、9月29日(金)、10月6日(金)、10月13日(金)、  
10月19日(金)、10月27日(金)、11月2日(木)、11月13日(月)、  
11月17日(金)、12月1日(金)、12月21日(木)、令和6年1月15日(月)、  
1月26日(金)、2月2日(金)、2月16日(金)、2月26日(月)、3月8日(金)、  
3月15日(金)、3月22日(金)、3月29日(金)

<b>3. 市民活動支援施設の視察</b>	
実施日時	令和 5 年 8 月 30 日(水)、31 日(木)
視察先/ 対応者	龍谷大学 政策学部 教授 深尾昌峰氏 公益財団法人京都地域創造基金 専務理事 可児卓馬氏 京都市市民活動総合センター センター長 内田香奈氏 副センター長 真鍋拓司氏 京都市文化市民局地域自治推進課 市民活動支援係長 別府隆男氏 市民活動支援担当 岩沢真梨絵氏 京都市下京いきいき市民活動センター センター長 吉田隆真氏
内容	「仙台市協働まちづくり推進プラン 2021」の期間終了(令和 7 年度)および仙台市市民活動サポートセンターの次期指定管理機関(令和 7 年度~)へ向けて、協働による多様な取組の展開について新たな知見を得ること、および今後の市民活動サポートセンターの機能検討を目的に、先進地視察を行った。
<b>4. 調査報告会</b>	
<b>NPO アンケート調査報告会とNPO向け「ボランティアウェブ」説明会</b>	
実施日時	令和 5 年 9 月 29 日(金)15:30~17:30/19:00~20:30
会場	仙台市市民活動サポートセンター セミナーホール オンライン(Zoom)
対象者	11 団体 15 人 ・午後の部 7 団体 9 人(会場 7 人、オンライン 2 人) ・夜の部 5 団体 6 人(会場 4 人、オンライン 2 人) ※同一団体から午後の部・夜の部へそれぞれ参加もあるため団体の合計は、一致しない。
参加費	無料
内容	令和 4 年度に市内の NPO 法人を対象に実施したアンケート調査の結果報告と、公益財団法人日本フィランソロピー協会が運営する「ボランティアウェブ」の説明会。
共催	公益財団法人日本フィランソロピー協会
NPO 等の、活動力強化につながるよう「ボランティアウェブ」について、サポートセンター機関紙「ぱれっと」や、サポセンブログでも周知、発信した。	
添付	■広報物 □配布資料 □アンケート結果 ■その他( 令和 5 年度調査研究事業報告書 )

